
愛西市

介護保険に関するアンケート調査

調査結果概要資料

— 目次 —

I	調査の概要	1
II	介護予防・日常生活圏域二エズ調査の結果	2
III	在宅介護実態調査の結果	26
IV	介護保険事業者調査の結果	40
V	介護支援専門員調査の結果	46

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、第10期介護保険事業計画・高齢者福祉計画の策定にあたって、対象となる住民の健康状態や生活習慣、介護保険サービス、保健福祉サービスの利用状況やニーズ等を把握し、基礎資料とすることを目的とします。

2 調査方法等

本調査は以下のとおり実施しました。

区 分	①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	②在宅介護実態調査	③介護保険事業者調査	④介護支援専門員調査
調査対象者	要介護認定を受けていない65歳以上の人、要支援認定者、介護予防・日常生活支援総合事業対象者	65歳以上の要支援・要介護認定者およびその主な介護者	本市および近隣の要支援・要介護サービスを提供している事業者	本市および近隣の介護支援専門員
抽出方法	無作為抽出			
調査票の配布・回収	郵送による配布・回収			
調査期間	令和8年1月5日～1月23日			

3 回収結果

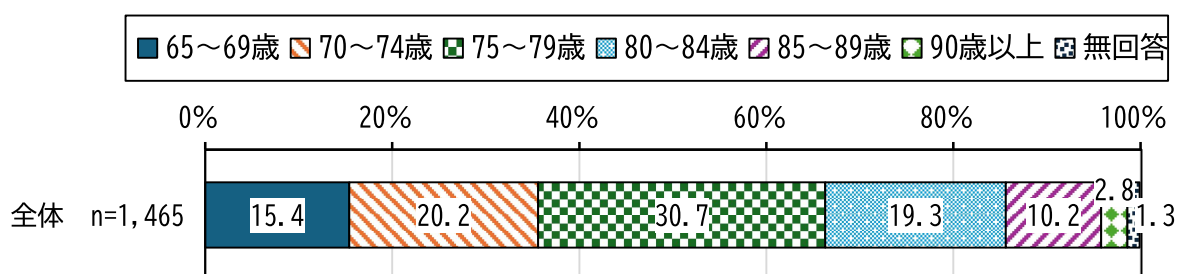
回収結果は以下のとおりです。

区 分	配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	2,000	1,466	1,465	73.3%
②在宅介護実態調査	1,000	612	569	56.9%
③介護保険事業者調査	100	74	74	74.0%
④介護支援専門員調査	100	70	70	70.0%

Ⅱ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果

1 年齢

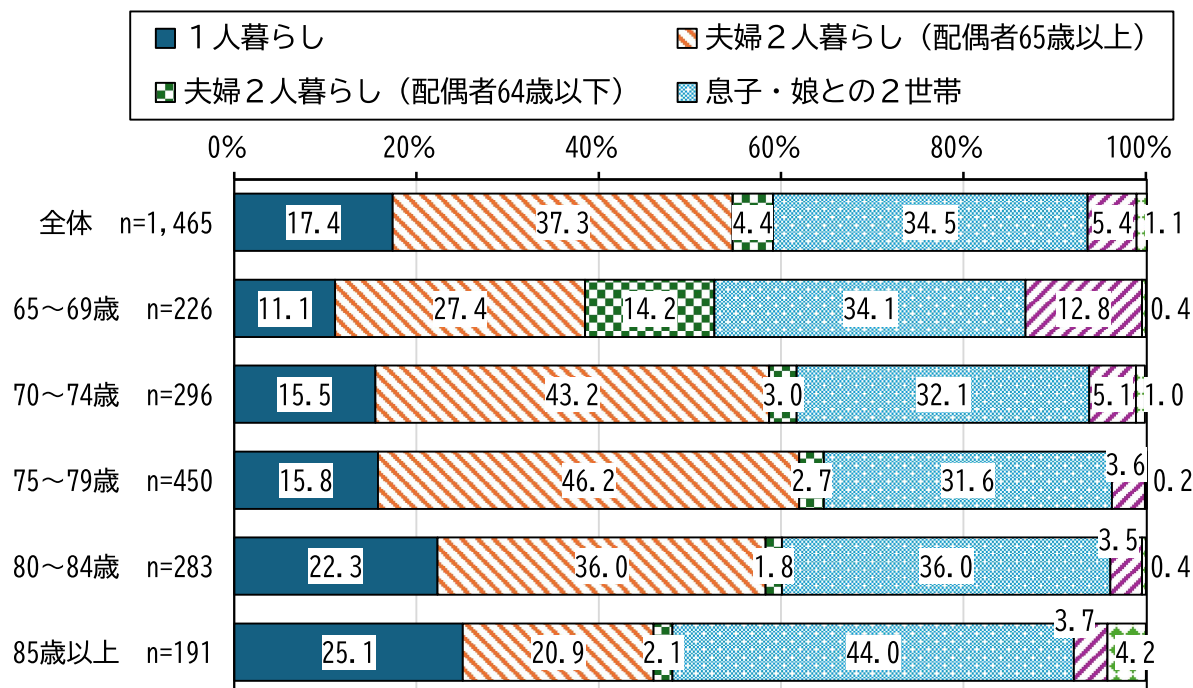
年齢は、「75～79歳」が30.7%と最も高く、次いで「70～74歳」が20.2%となっています。
また、〈65～74歳〉が35.6%、〈75歳以上〉が63.0%となっています。



2 家族構成

家族構成は、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が37.3%と最も高く、これに「1人暮らし」（17.4%）を加えた〈夫婦のみ世帯〉が54.7%となっています。

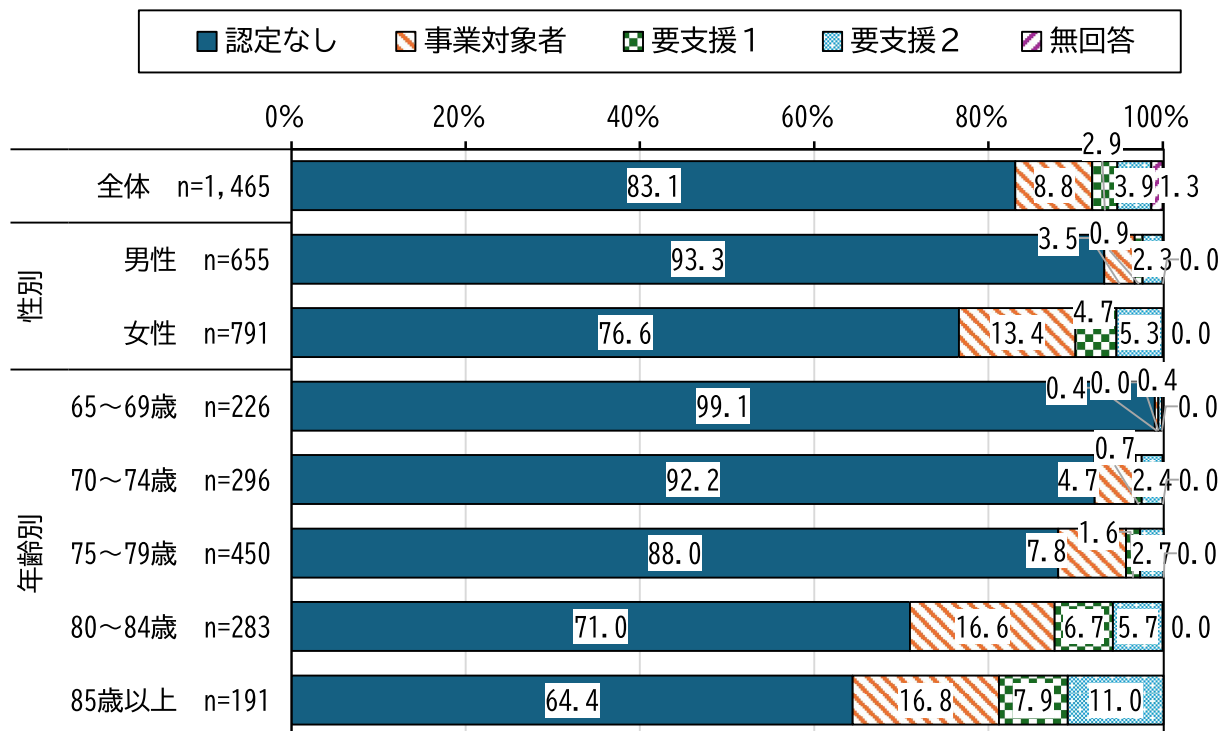
年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「1人暮らし」が上昇し、85歳以上では25.1%となっています。



3 認定状況

認定状況は、「認定なし」が83.1%と最も高くなっています。また、「要支援1」と「要支援2」を合計した〈要支援者〉が6.8%、「事業対象者」が8.8%となっています。

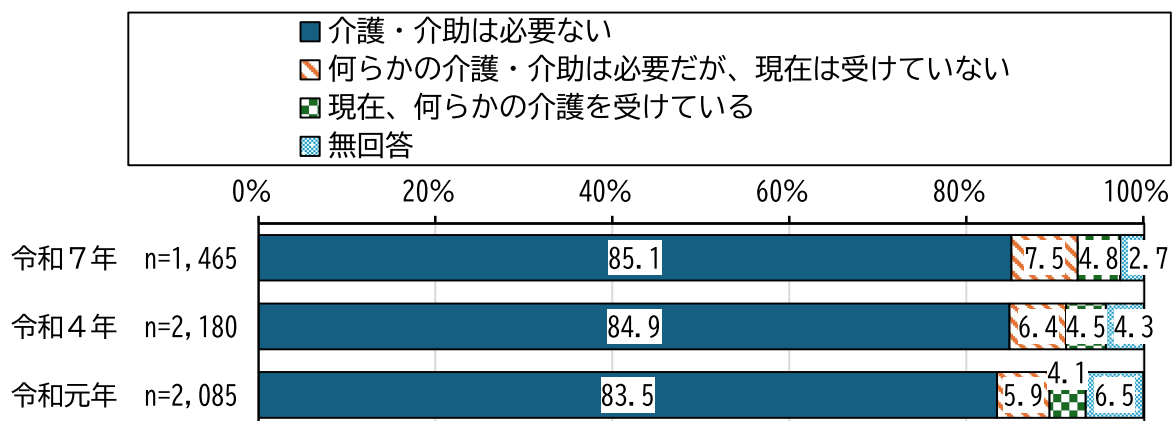
性別にみると、女性は男性に比べて〈要支援者〉が6.8ポイント高くなっています。また、年齢別にみると、80歳以上になると、「事業対象者」および〈要支援者〉が高くなります。



4 介護・介助の必要性

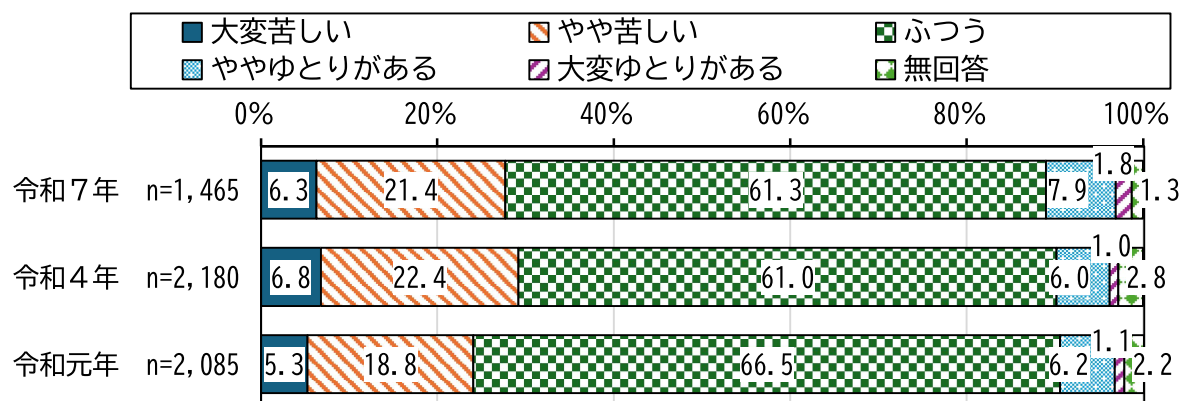
普段の生活で介護・介助が必要かたずねたところ、「介護・介助は必要ない」が85.1%と最も高くなっています。また、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」（7.5%）と「現在、何らかの介護を受けている」（4.8%）を合計した〈介護・介助が必要〉が12.3%となっています。

経年でみると〈介護・介助が必要〉が緩やかに上昇しています。



5 経済状況

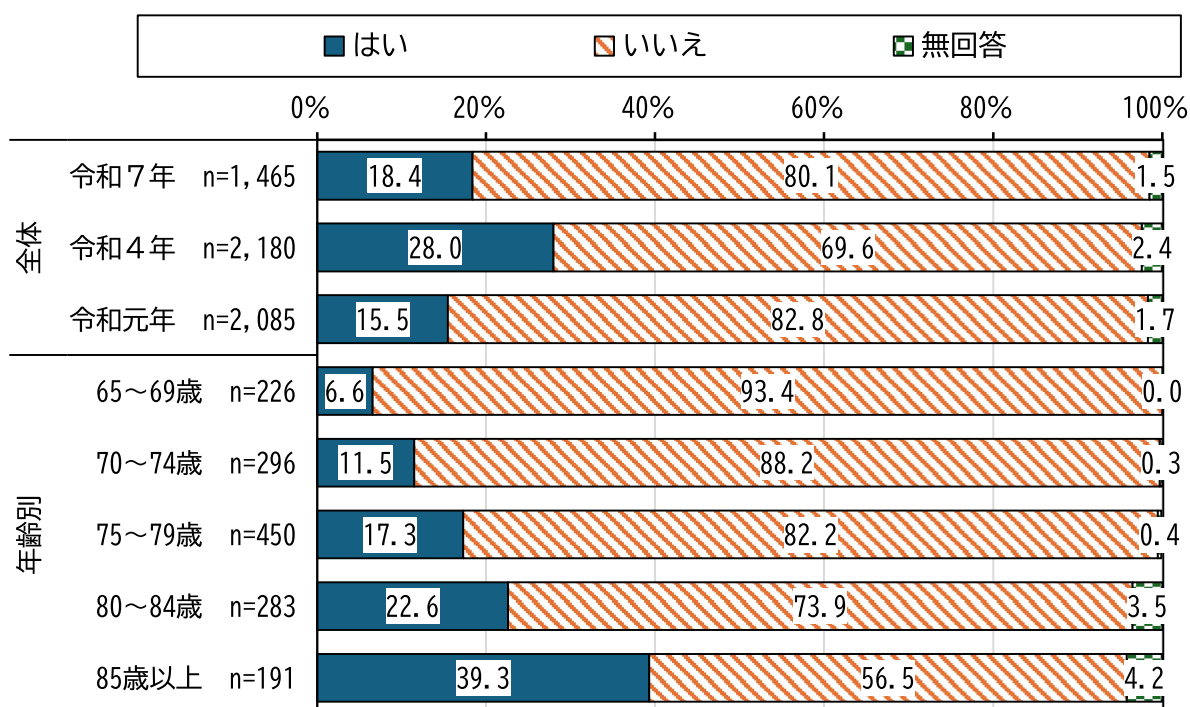
現在の経済状況をみると、「ふつう」が61.3%と最も高くなっています。次いで「やや苦しい」が21.4%、「大変苦しい」が6.3%となっており、これらを合計した〈苦しい〉が27.7%となっています。また、「ややゆとりがある」（7.9%）と「大変ゆとりがある」（1.8%）を合計した〈ゆとりがある〉が9.7%となっています。



6 外出控え

外出を控えているかたずねたところ、「はい」が18.4%となっており、令和4年度調査と比較すると10 ポイント近く低下しています。令和4年度調査時点では、新型コロナウイルス感染症の影響によって、外出を控えている人が多くいましたが、現在ではその影響も収まり、外出する人が増えたことがうかがえます。

「はい」を年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい上昇し、85歳以上になると約40%となります。



7 外出時の移動手段

移動手段をたずねたところ、「自動車（自分で運転）」が66.4%と最も高く、次いで「徒歩」が41.3%、「自転車」が25.7%の順となっています。

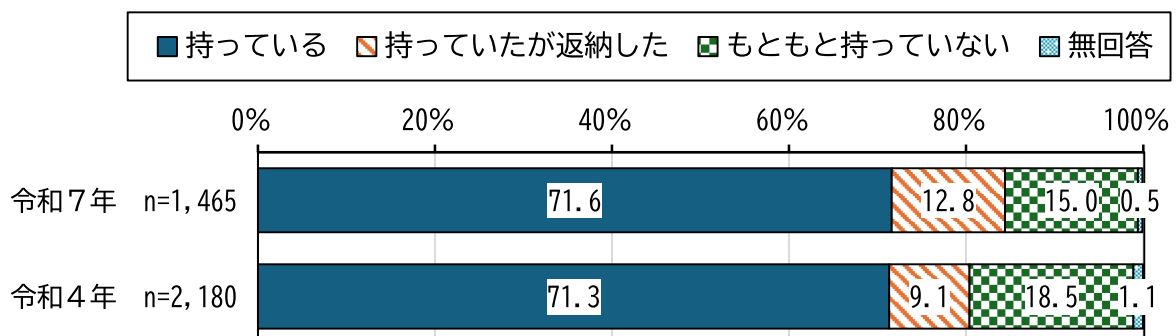
経年でみると、「自動車（自分で運転）」が上昇し、「自転車」および「自動車（人に乗せてもらう）」が低下しています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「自動車（自分で運転）」が低下し、「自動車（人に乗せてもらう）」、「歩行器・シルバーカー」および「タクシー」が上昇する傾向にありますが、80～84歳の49.8%、85歳以上の27.7%が「自動車（自分で運転）」と回答しています。

		回答数	徒歩	自転車	バイク	自動車 (自分で 運転)	自動車 (人に乗 せてもら う)	電車	路線バス	巡回バス
全体	令和7年	1,465	41.3	25.7	1.6	66.4	25.6	16.9	2.1	6.3
	令和4年	2,180	44.6	31.1	2.6	65.7	26.3	15.6	1.3	4.2
	令和元年	2,085	44.1	38.7	3.0	61.2	27.9	21.3	4.7	—
年齢別	65～69歳	226	41.2	23.0	2.2	88.9	17.7	22.1	1.3	0.9
	70～74歳	296	42.2	24.3	2.4	79.1	22.0	16.6	2.0	4.7
	75～79歳	450	42.7	27.1	1.1	74.0	22.0	18.0	2.7	6.7
	80～84歳	283	41.0	27.2	2.5	49.8	31.1	16.6	1.8	10.2
	85歳以上	191	38.7	26.7	0.0	27.7	41.9	9.9	2.6	9.4
		回答数	病院や施 設のバス	車いす	電動車い す（カー ト）	歩行器・ シルバー カー	タクシー	その他	無回答	
全体	令和7年	1,465	1.2	0.5	0.3	2.3	6.5	0.7	0.9	
	令和4年	2,180	0.9	0.3	0.3	2.2	7.0	0.4	1.3	
	令和元年	2,085	1.3	0.2	0.2	1.9	6.3	0.8	1.8	
年齢別	65～69歳	226	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.4	
	70～74歳	296	0.3	0.7	0.0	1.0	2.4	0.0	0.3	
	75～79歳	450	0.7	0.7	0.2	1.1	4.7	1.1	0.9	
	80～84歳	283	1.4	0.4	0.4	2.8	10.2	1.4	0.7	
	85歳以上	191	4.7	1.0	1.0	8.9	15.7	0.5	2.6	

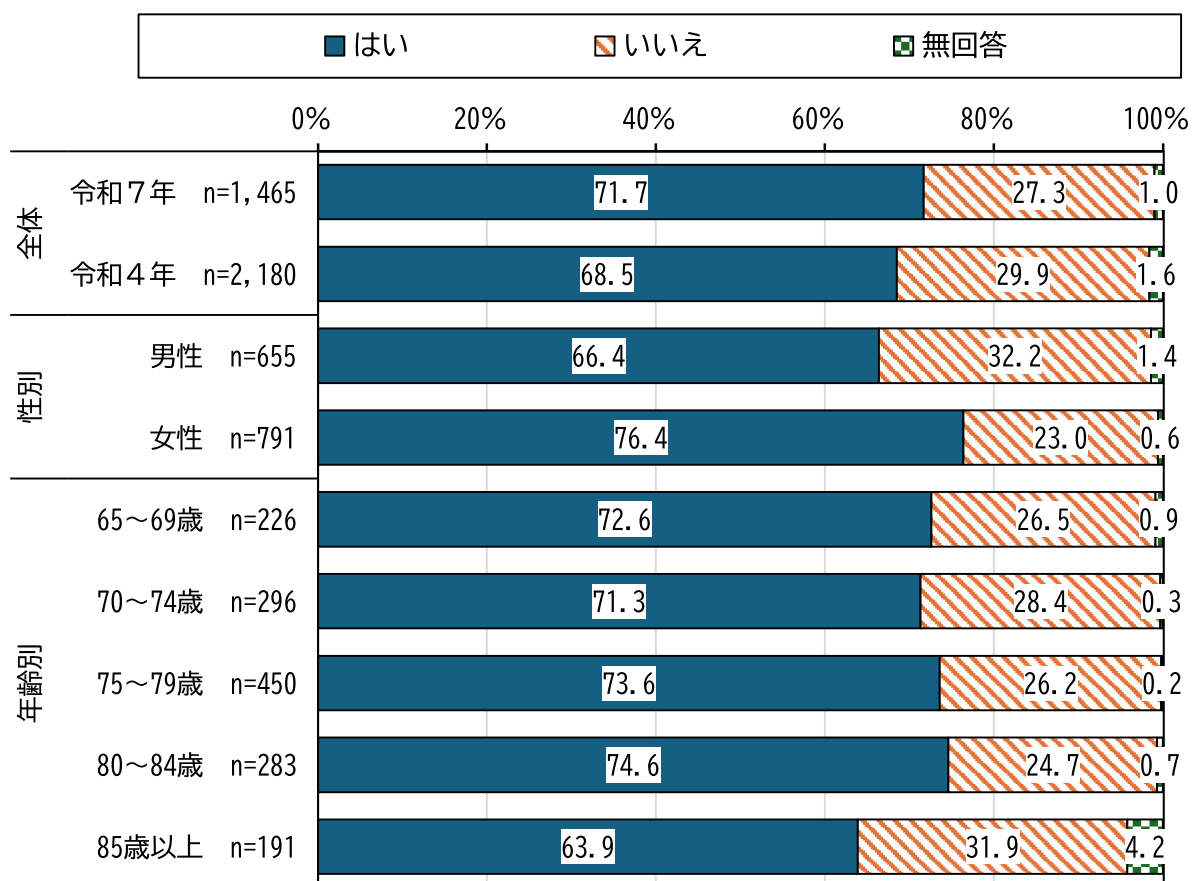
8 普通自動車運転免許証の保有状況

普通自動車運転免許証の保有状況は、「持っている」が71.6%と最も高く、次いで「もともと持っていない」が15.0%、「持っていたが返納した」が12.8%の順となっています。



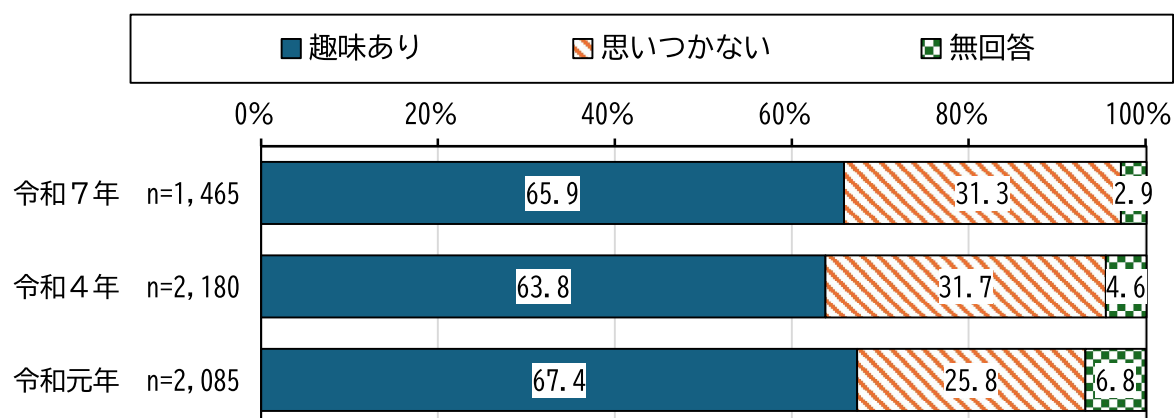
9 歯科検診の受診状況

過去1年間の歯科検診の受診率（「はい」）は71.7%となっています。
受診率を性別にみると、女性は男性に比べて10.0ポイント高くなっています。
また、年齢別にみると、85歳以上になると10ポイント以上低下しています。



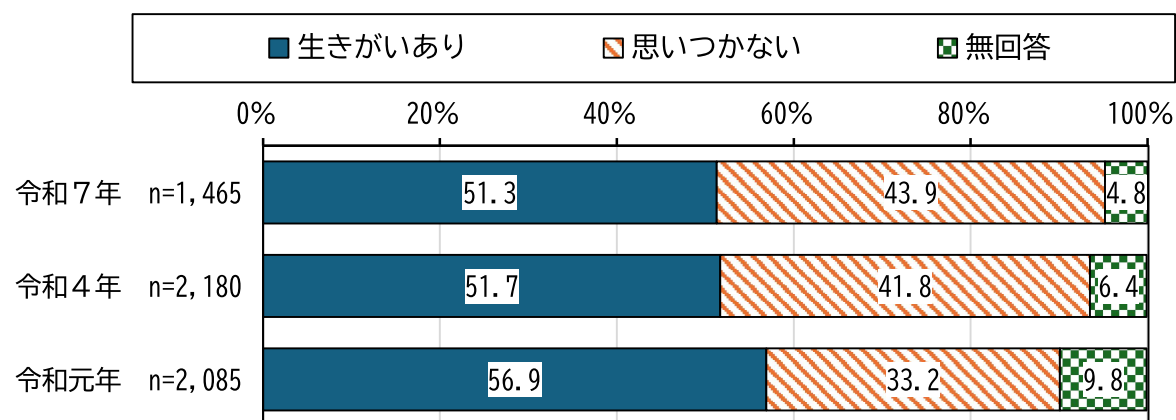
10 趣味の有無

趣味があるかたずねたところ、「趣味あり」が65.9%となっています。



11 生きがいの有無

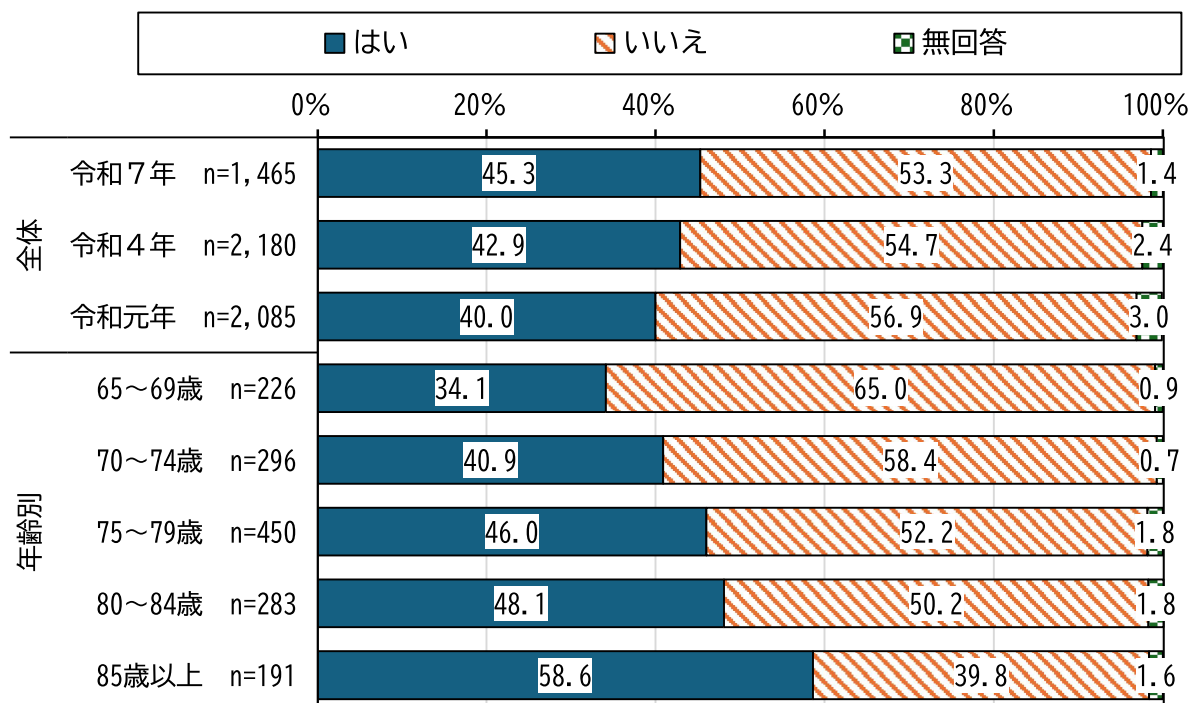
生きがいがあるかたずねたところ、「生きがいあり」は51.3%となっています。



12 物忘れの有無

物忘れが多いと感じる（「はい」）のは45.3%となっています。

「はい」を年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい上昇し、85歳以上になると60%近くになります。



13 地域活動への参加頻度

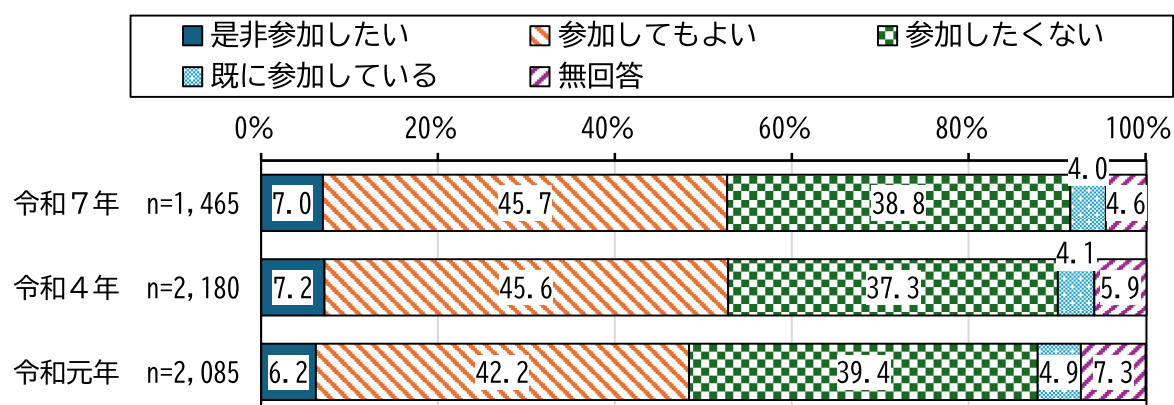
会・グループ等への参加頻度について、「週4回以上」、「週2～3回」、「週1回」、「月1～3回」、「年に数回」を合計した〈参加している〉人の割合は、⑦町内会・自治会が34.0%と最も高くなっています。

また、〈週1回以上〉が10%を超えているのは、②スポーツ関係のグループやクラブ（14.8%）および⑧収入のある仕事（22.2%）となっています。

n=1,465							参加している	参加していない	無回答
	週4回以上	週2～3回	週1回	週1回以上	月1～3回	年に数回			
①ボランティアのグループ	0.3	0.6	1.1	2.0	3.8	4.7	10.5	70.8	18.7
②スポーツ関係のグループやクラブ	2.7	6.8	5.3	14.8	4.2	2.7	21.7	61.9	16.2
③趣味関係のグループ	1.0	2.9	4.7	8.6	10.3	5.7	24.6	59.3	16.2
④学習・教養サークル	0.3	0.5	1.0	1.8	2.9	2.7	7.4	72.4	20.3
⑤サロンなどの介護予防のための通いの場	0.9	1.4	1.8	4.1	3.5	0.8	8.4	72.7	18.9
⑥老人クラブ	0.2	0.3	0.4	0.9	1.8	9.8	12.5	69.6	18.0
⑦町内会・自治会	0.3	0.4	0.8	1.5	4.2	28.3	34.0	47.7	18.4
⑧収入のある仕事	14.5	6.7	1.0	22.2	2.0	1.8	26.0	55.6	18.4

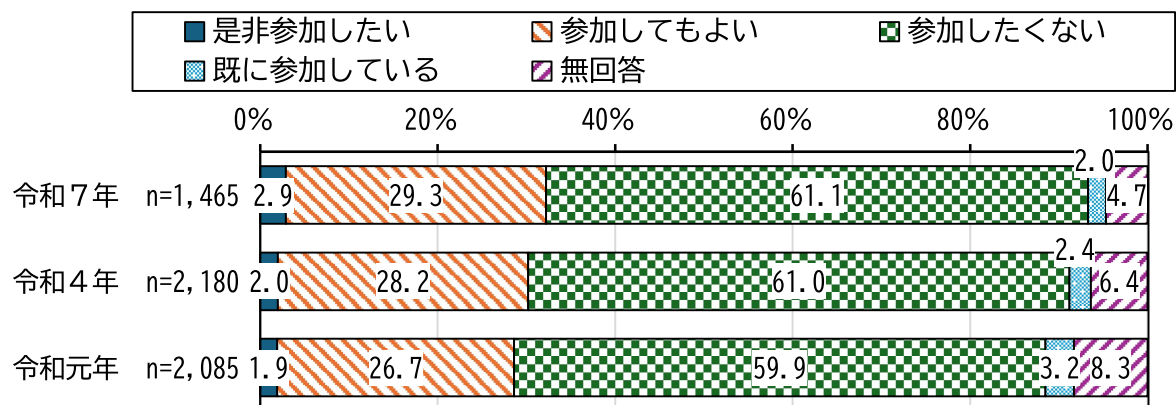
14 地域活動への参加者としての参加意向

地域活動への参加者としての参加意向をたずねたところ、「参加してもよい」が45.7%と最も高く、次いで「参加したくない」が38.8%の順となっています。また、「是非参加したい」、「参加してもよい」、「既に参加している」を合計した〈参加意向〉は56.7%となっています。



15 地域活動への企画・運営としての参加意向

地域活動への企画・運営としての参加意向をたずねたところ、「参加したくない」が61.1%と最も高く、次いで、「参加してもよい」が29.3%の順となっています。また、「是非参加したい」、「参加してもよい」、「既に参加している」を合計した〈参加意向〉は34.2%となっています。



16 就労状況

就労状況をたずねたところ、「引退した」が49.9%と最も高く、次いで「非常勤（パート・アルバイト等）」が15.2%、「自営業」が13.4%の順となっています。

性別にみると、男性は女性に比べて「引退した」が10ポイント以上高くなっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「引退した」が上昇する傾向にありますが、65～69歳はその他の年齢層に比べて「引退した」が33.6%の低い割合となっています。

		回答数	職に就いたことがない	引退した	常勤（フルタイム）	非常勤（パート・アルバイト等）	自営業	求職中	その他	無回答
全体	令和7年	1,465	9.5	49.9	4.6	15.2	13.4	0.5	4.5	5.7
性別	男性	655	5.0	56.0	6.0	14.5	15.7	0.6	2.3	2.3
	女性	791	13.3	45.0	3.4	15.8	11.4	0.3	6.2	8.6
年齢別	65～69歳	226	2.7	33.6	16.8	31.0	14.6	0.9	3.5	0.9
	70～74歳	296	7.4	51.7	3.7	20.9	13.2	0.0	3.7	2.7
	75～79歳	450	9.8	53.3	3.1	15.6	14.2	0.9	3.1	2.4
	80～84歳	283	12.0	59.7	0.7	4.9	12.7	0.0	5.3	9.5
	85歳以上	191	16.8	44.5	0.5	2.1	11.0	0.0	8.4	18.3

17 家族や友人・知人以外の相談相手

友人や知人以外の相談相手をたずねたところ、「そのような人はいない」が44.0%と最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」が23.3%、「地域包括支援センター・市役所」が15.6%の順となっています。

		回答数	自治会・町内会・老人クラブ	社会福祉協議会・民生委員	ケアマネジャー	医師・歯科医師・看護師	地域包括支援センター・市役所	その他	そのような人はいない	無回答
全体	令和7年	1,465	5.7	8.5	8.5	23.3	15.6	2.9	44.0	7.6
	令和4年	2,180	8.0	10.0	6.2	24.0	13.8	3.6	44.4	9.3
	令和元年	2,085	8.5	10.7	5.2	22.3	12.6	4.9	39.7	15.3

18 地域に対してできる支援

地域に対してできる支援をたずねたところ、「見守り・声かけ」が38.8%と最も高く、次いで「できない」が30.2%、「ゴミ出し」が25.7%の順となっています。

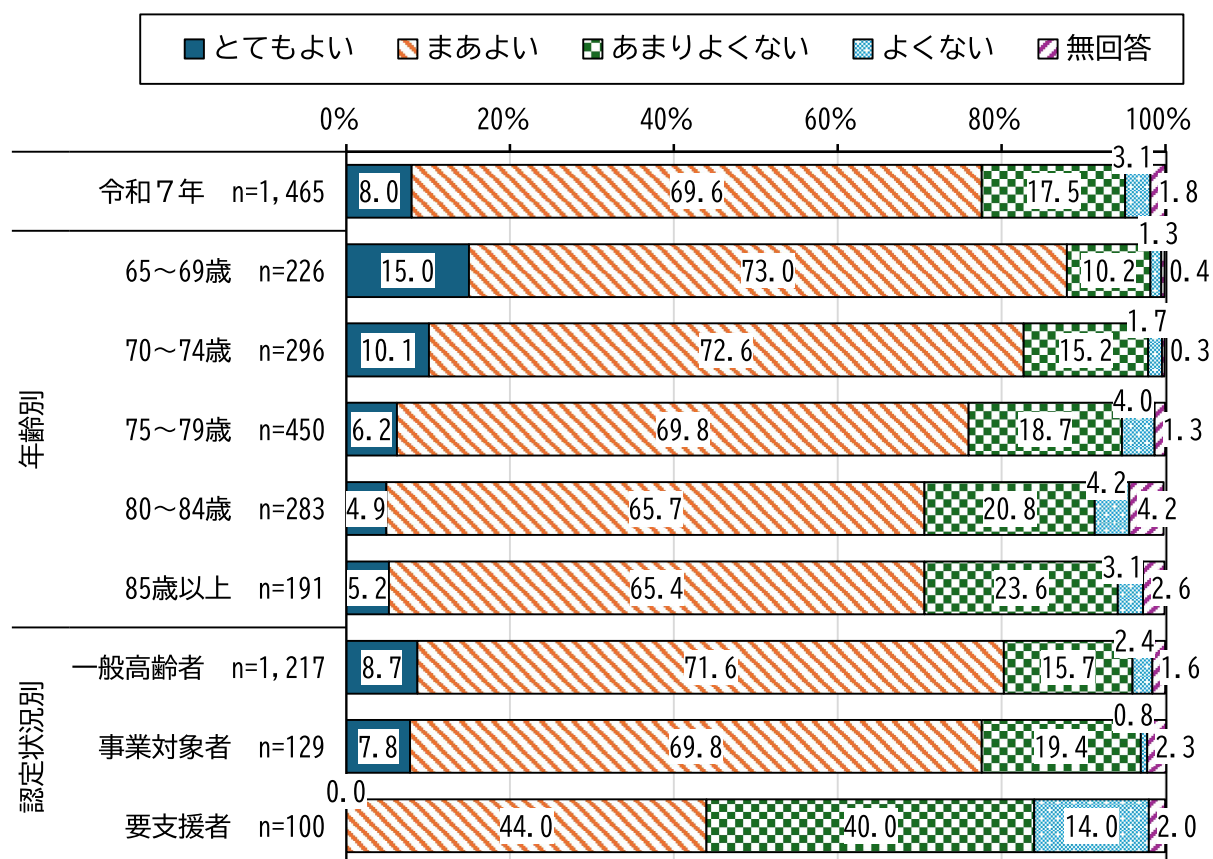
経年でみると、「見守り・声かけ」が上昇し、「配食の手伝い」、「調理」、「外出同行（通院、散歩など）」、「外出時の送迎」など多くが低下しています。

		回答数	配食の手伝い	調理	掃除・洗濯	買い物代行	外出同行（通院、散歩など）	ゴミ出し	見守り、声かけ
全体	令和7年	1,465	5.5	4.3	8.3	14.1	10.6	25.7	38.8
	令和4年	2,180	6.1	4.9	8.0	16.0	11.7	23.5	37.7
	令和元年	2,085	11.7	9.0	14.6	15.7	12.2	26.9	30.3
		回答数	サロンなど、通いの場のサポート	外出時の送迎	電球の交換などの軽作業	衣類の整理	できない	その他	無回答
全体	令和7年	1,465	4.0	8.8	11.2	1.9	30.2	2.7	5.7
	令和4年	2,180	3.7	9.3	11.9	2.8	30.1	2.2	8.4
	令和元年	2,085	6.3	12.4	16.2	8.3	23.5	2.9	17.5

19 健康状態

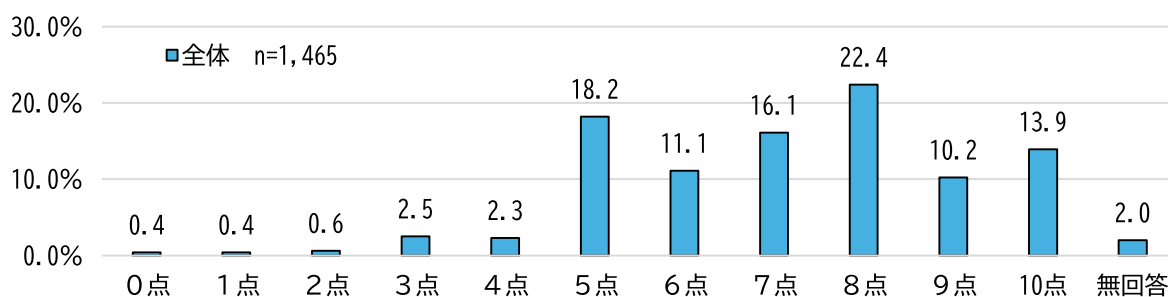
現在の健康状態をたずねたところ、「まあよい」(69.6%)と「とてもよい」(8.0%)を合計した〈よい〉が77.6%となっています。

〈よい〉を年齢別にみると、65～74歳は80%台ですが、75歳以上になると70%台に低下しています。また、認定状況別にみると、要支援者になると急激に低下し、44.0%となっています。



20 幸福度

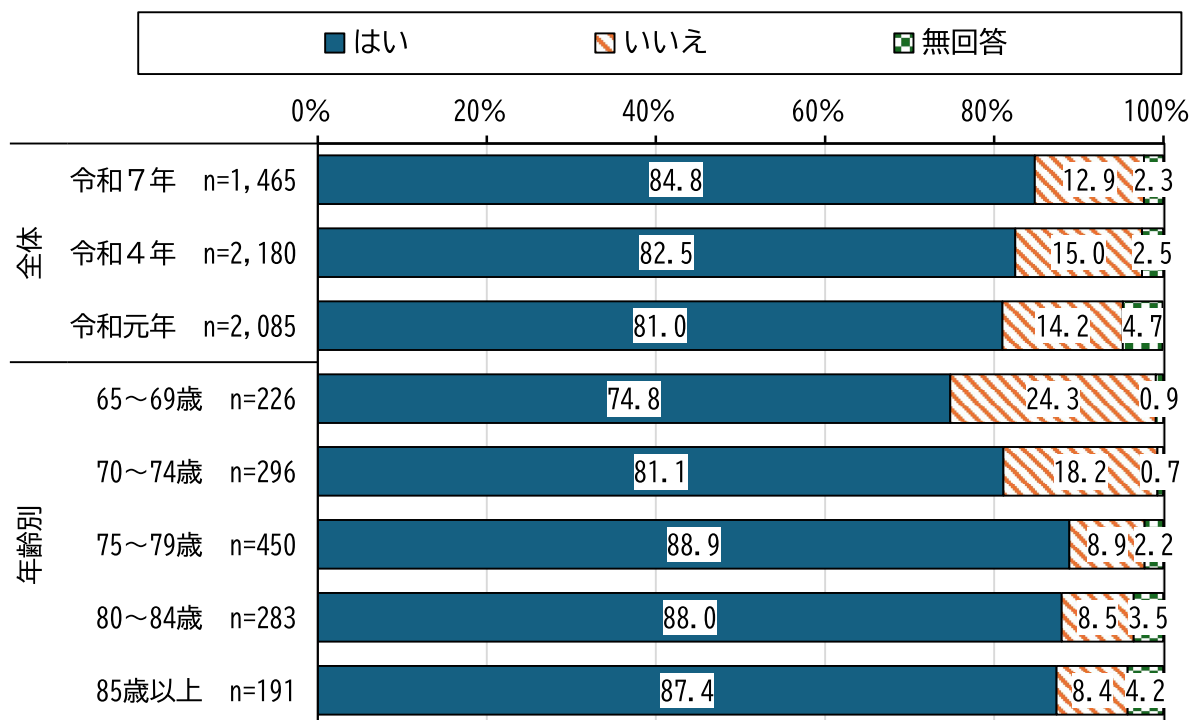
「あなたは、現在どの程度幸せですか。『とても不幸』を0点、『とても幸せ』を10点とすると、何点くらいになると思いますか」という設問では、「8点」が22.4%と最も高く、次いで「5点」が18.2%、「7点」が16.1%、「10点」が13.9%の順となっており、〈8点以上〉が46.5%を占めています。



21 通院の状況

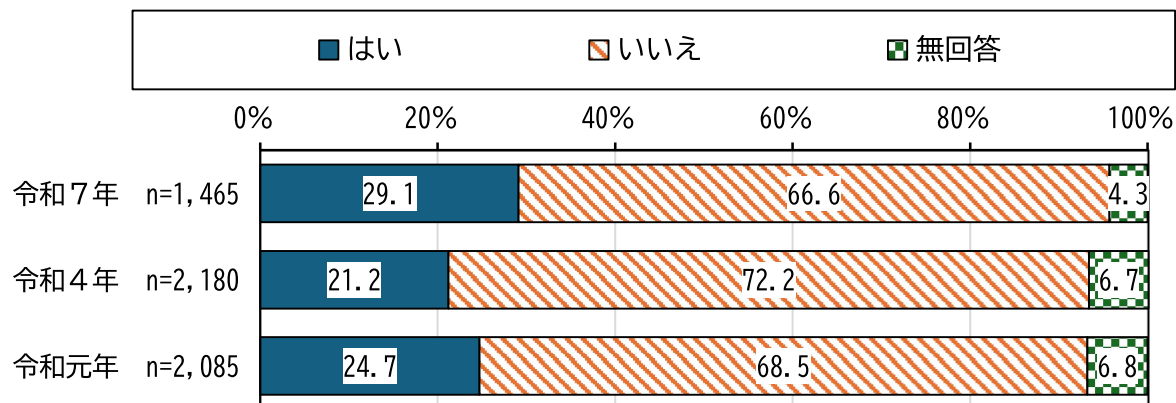
現在、通院している（「はい」）のは、84.8%となっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい上昇しますが、75～79歳をピークにその後は緩やかに低下します。



22 認知症に関する相談窓口の認知度

認知症に関する相談窓口の認知度（「はい」）は、29.1%となっており、令和4年度調査と比較すると7.9ポイント高くなっています。



23 愛西市が実施している認知症施策の認知度

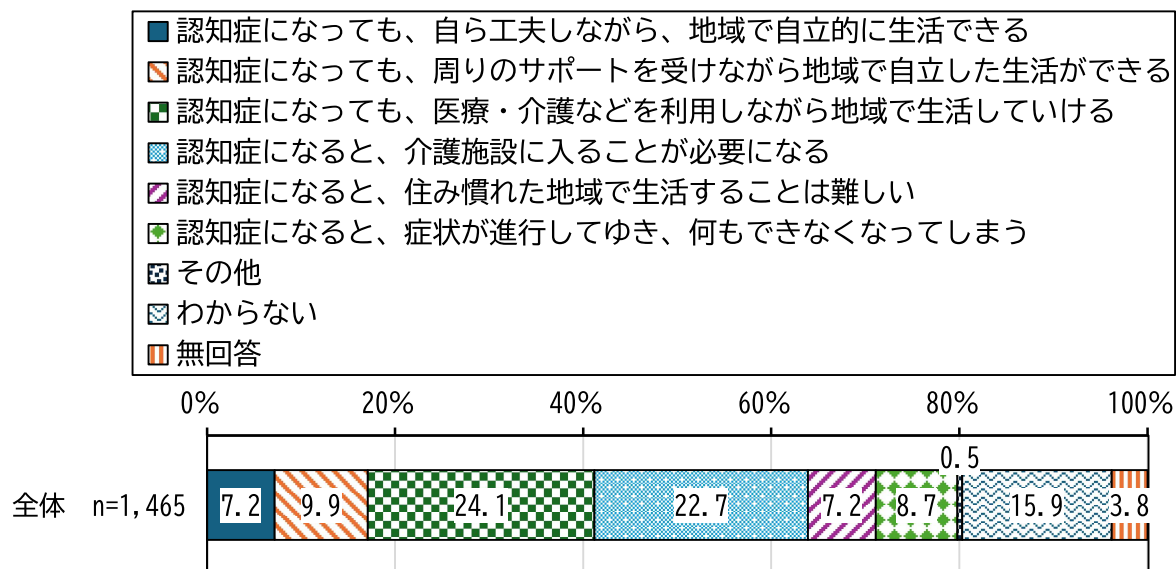
愛西市が実施している認知症施策の認知度は、「高齢者見守りステッカーの配布」が10.0%と最も高く、次いで「徘徊高齢者等家族支援サービス」が9.7%の順となっており、令和4年度調査と比較すると全般的に上昇しています。

		回答数	徘徊高齢者等家族支援サービス	家族介護者のつどい	高齢者見守りステッカーの配布	成年後見制度の利用支援	認知症サポーターの養成	その他	無回答
全体	令和7年	1,465	9.8	7.8	10.0	8.1	7.8	18.6	53.0
	令和4年	2,180	7.1	5.3	6.8	6.0	4.9	6.1	76.3

24 認知症に対するイメージ

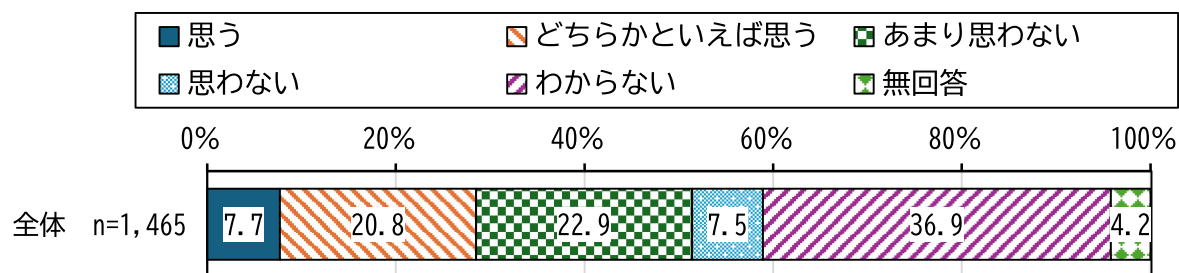
認知症に対するイメージをたずねたところ、「認知症になっても、医療・介護などを利用しながら地域で生活していける」が24.1%と最も高く、次いで「認知症になると、介護施設に入ることが必要になる」が22.7%の順となっています。

「認知症になっても、自ら工夫しながら、地域で自立的に生活できる」、「認知症になっても、周りのサポートを受けながら地域で自立した生活ができる」、「認知症になっても、医療・介護などを利用しながら地域で生活していける」を合計した〈認知症になっても地域で生活できる〉は41.2%となっています。



25 新しい認知症観

愛西市は、認知症になっても希望を持って自分らしく暮らせるまちだと思いかたずねたところ、「わからない」が36.9%と最も高く、次いで「あまり思わない」（22.9%）の順となっており、「思う」と「どちらかといえば思う」を合計した〈思う〉が28.5%、「あまり思わない」と「思わない」を合計した〈思わない〉が30.4%となっています。



26 今後、地域で暮らしていくために必要なサービス

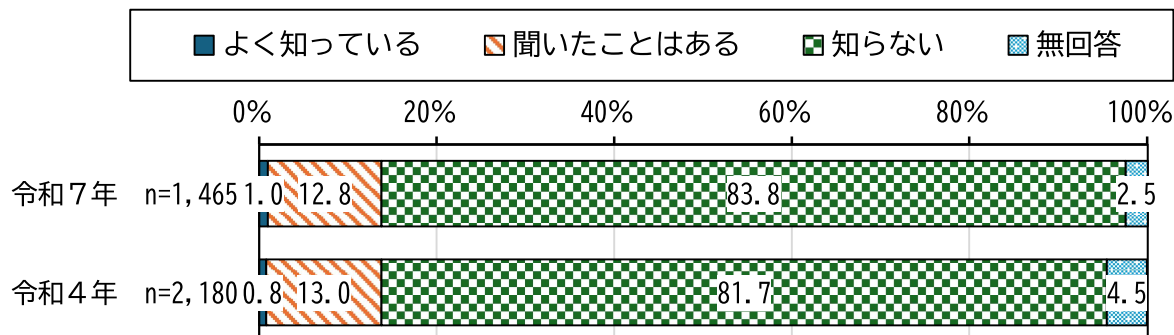
今後、地域で暮らしていくために必要なサービスをたずねたところ、「移送サービス（介護・福祉タクシーなど）」が43.9%と最も高く、次いで「見守り、声かけ」が33.3%、「外出同行（通院・買い物など）」が31.1%、「配食」が27.1%の順となっています。

経年でみると、「特にない」が低下し、全般的に上昇しています。

		回答数	配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物など）
全体	令和7年	1,465	27.1	10.1	18.0	23.5	21.2	31.1
	令和4年	2,180	23.6	7.3	13.4	20.6	15.3	22.7
	令和元年	2,085	16.7	6.9	11.3	16.7	11.7	20.9
		回答数	移送サービス（介護・福祉タクシーなど）	見守り、声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	特にない	無回答
全体	令和7年	1,465	43.9	33.3	12.9	2.7	18.0	5.9
	令和4年	2,180	35.4	28.0	11.0	1.8	25.0	10.2
	令和元年	2,085	29.6	22.2	10.5	2.5	30.6	12.2

27 アドバンスケアプランニング（ACP）の認知度

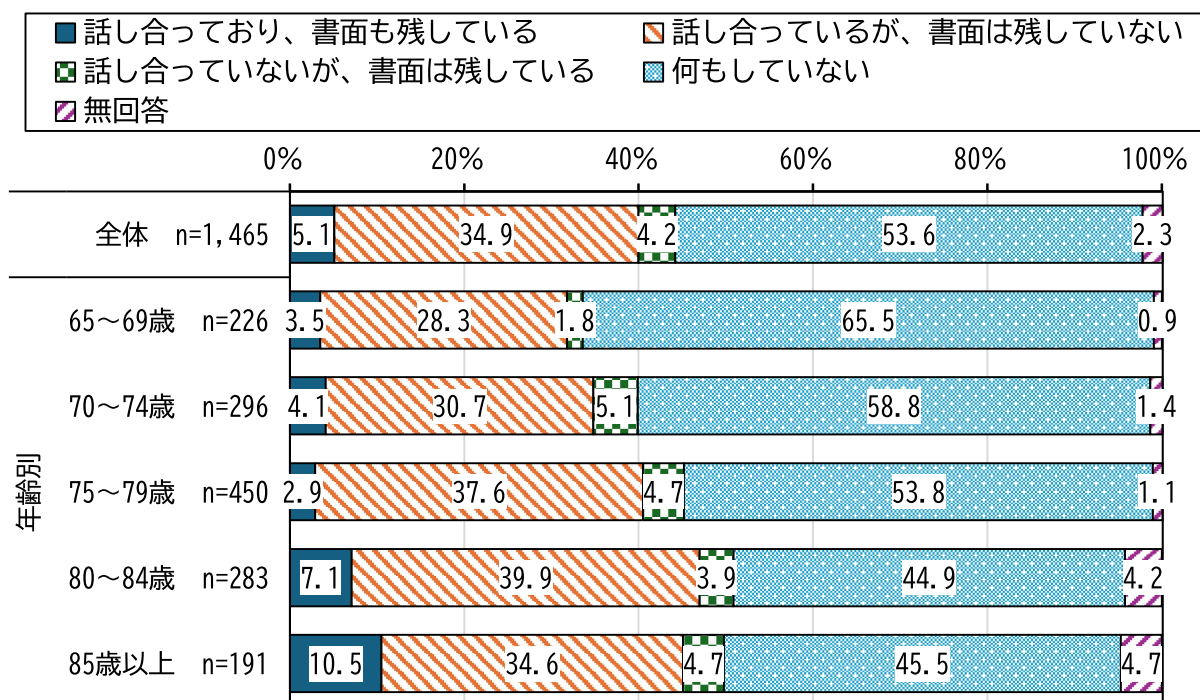
アドバンスケアプランニング（ACP）の認知度は、「よく知っている」が1.0%、「聞いたことがある」が12.8%、「知らない」が83.8%となっています。



28 もしものことがあった場合のことを考えて、日頃から家族と話し合ったり、書面に残すことをしているか

もしものことがあった場合のことを考えて、日頃から家族と話し合ったり、書面に残すことをしているかたずねたところ、「何もしていない」が53.6%と最も高く、次いで「話し合っているが、書面は残していない」（34.9%）の順となっています。

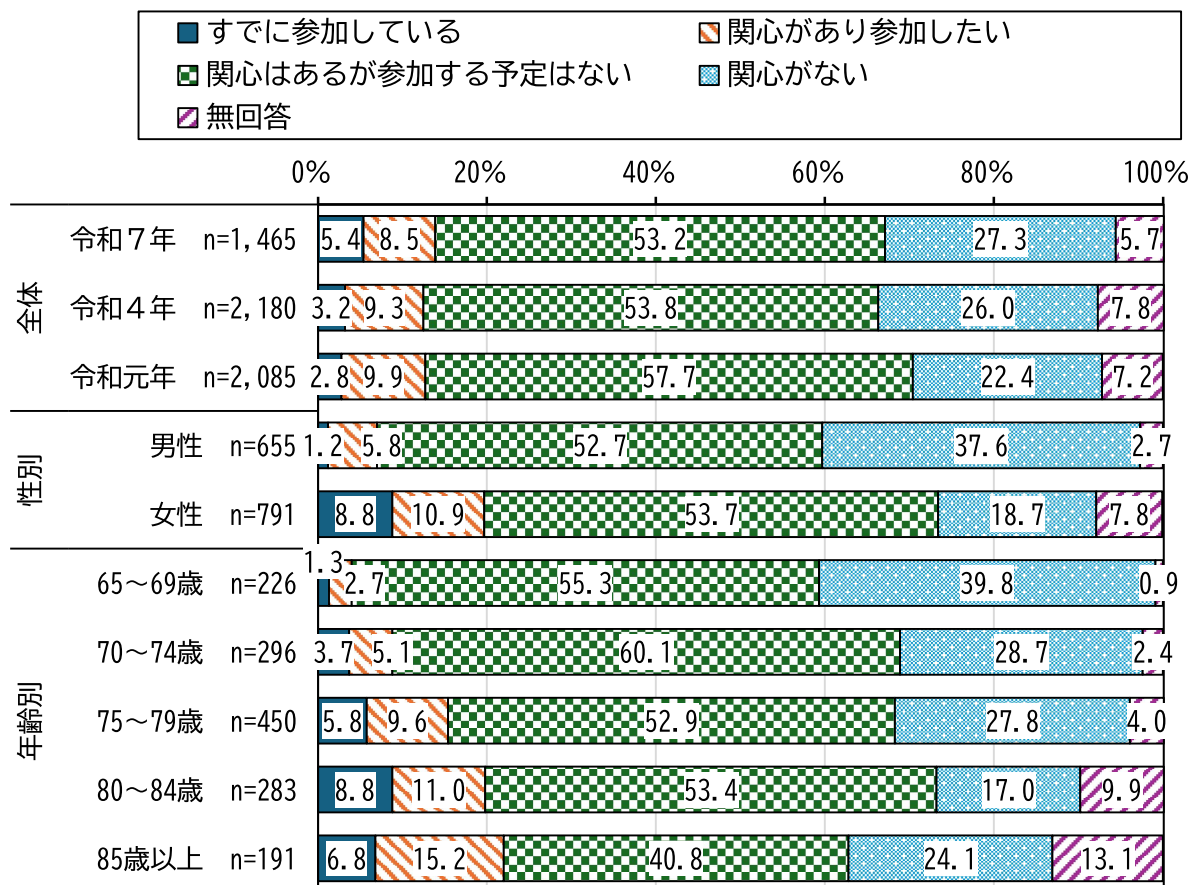
「何もしていない」は、年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい低下する傾向にあり、80歳以上になると50%を下回ります。



27 介護予防教室への参加意向

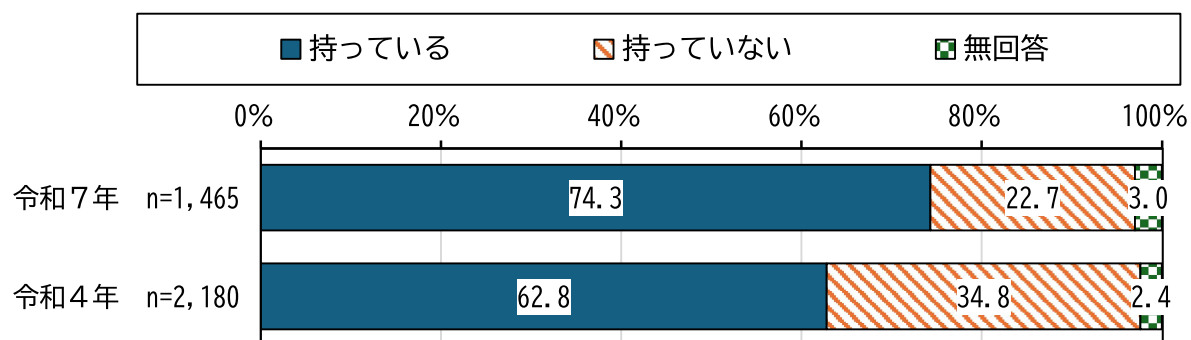
介護予防教室への参加意向をたずねたところ、「関心はあるが参加する予定はない」が53.2%と最も高く、次いで「関心がない」が27.3%、「関心があり参加したい」が8.5%、「すでに参加している」が5.4%の順となっています。また、「関心があり参加したい」と「すでに参加している」を合計した〈参加意向がある〉が13.9%となっています。

〈参加意向がある〉を性別にみると女性は男性に比べて12.7ポイント高くなっています。また、年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい上昇し、85歳以上になると20%を超えます。



28 スマートフォンの保有状況

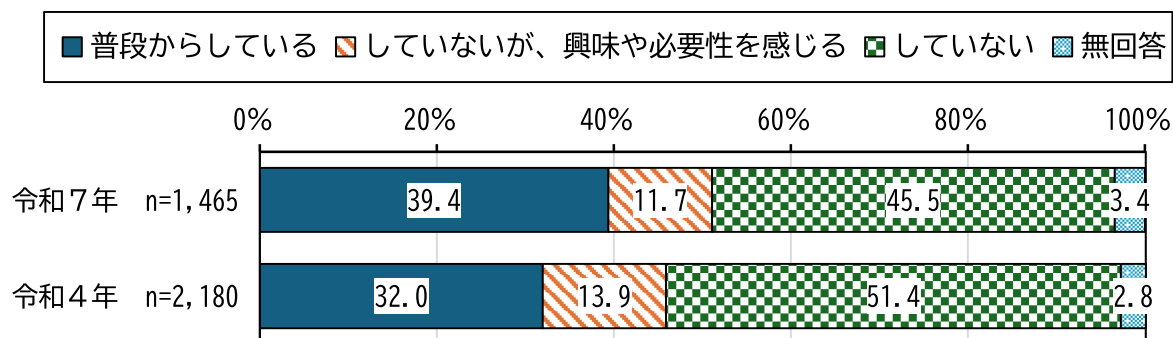
スマートフォンを「持っている」のは74.3%となっており、令和4年度調査と比較すると11.5ポイント高くなっています。



29 普段からインターネットを利用して情報収集をしているか

普段からインターネットを利用して情報収集をしているかたずねたところ、「していない」が45.5%と最も高くなっています。

令和4年度調査と比較すると、「普段からしている」が7.4ポイント高くなっています。



30 愛西市に関する情報の取得方法

愛西市に関する情報の取得方法は「広報あいさい」が85.9%と最も高く、次いで「近所の人・知人」が20.8%、「愛西市のホームページ」が17.7%の順となっています。

性別にみると、男性は女性に比べて「愛西市のホームページ」が、女性は男性に比べて「近所の人・知人」がそれぞれ10ポイント以上高くなっています。

年齢別にみると、いずれの年齢層も「広報あいさい」が最も高くなっていますが、次いで高いのは、75歳未満は「愛西市のホームページ」、75～84歳は「近所の人・知人」、85歳以上は「家族・親族」となっています。

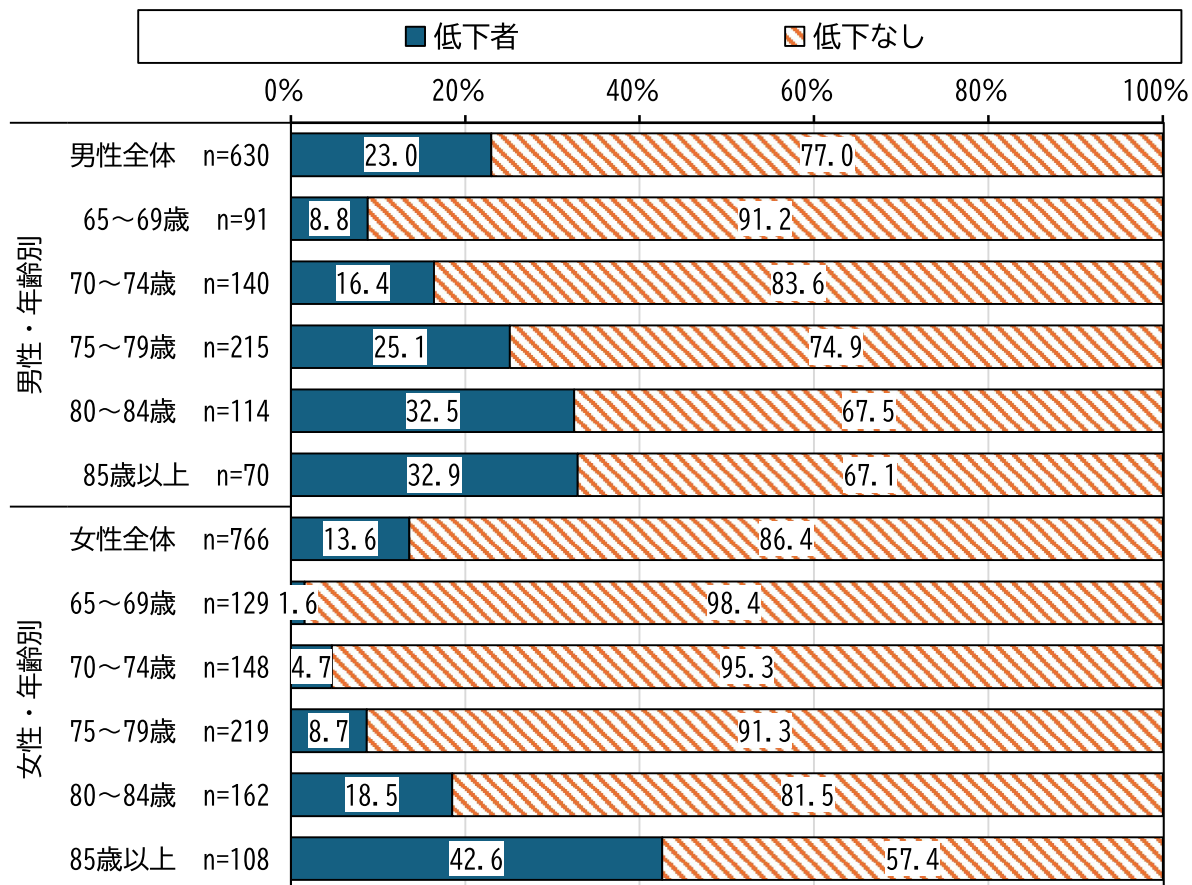
		回答数	広報あい さい	テレビ・ ラジオ	愛西市の ホーム ページ	愛西市の 公式SNS	近所の 人・知人	家族・親 族	その他	情報を取 得してい ない	無回答
全体	令和7年	1,465	85.9	11.3	17.7	7.1	20.8	14.2	1.5	4.0	2.3
	令和4年	2,180	86.2	14.2	16.1	5.7	20.9	17.5	1.2	3.6	2.3
性別	男性	655	81.7	11.0	23.1	7.3	15.1	14.0	1.1	5.2	1.7
	女性	791	89.5	11.5	13.0	7.0	25.4	14.3	1.6	2.9	2.7
年齢別	65～69歳	226	84.5	4.4	30.1	12.4	15.9	11.9	3.1	5.8	0.0
	70～74歳	296	87.5	9.5	21.3	8.8	15.5	11.8	0.7	3.7	1.7
	75～79歳	450	89.6	12.4	15.1	6.7	23.6	14.0	1.3	3.6	0.9
	80～84歳	283	83.7	14.5	12.0	4.2	25.4	13.8	1.4	3.2	3.9
	85歳以上	191	80.1	14.7	11.0	3.7	20.9	21.5	0.5	4.2	6.3

31 生活機能の評価

(1) 手段的自立度（IADL）

高齢者の生活機能进行评估ことができる老研式活動能力指標のうち、手段的自立度（IADL）をみると、「低下者」の割合は、男性が23.0%、女性が13.6%となっています。

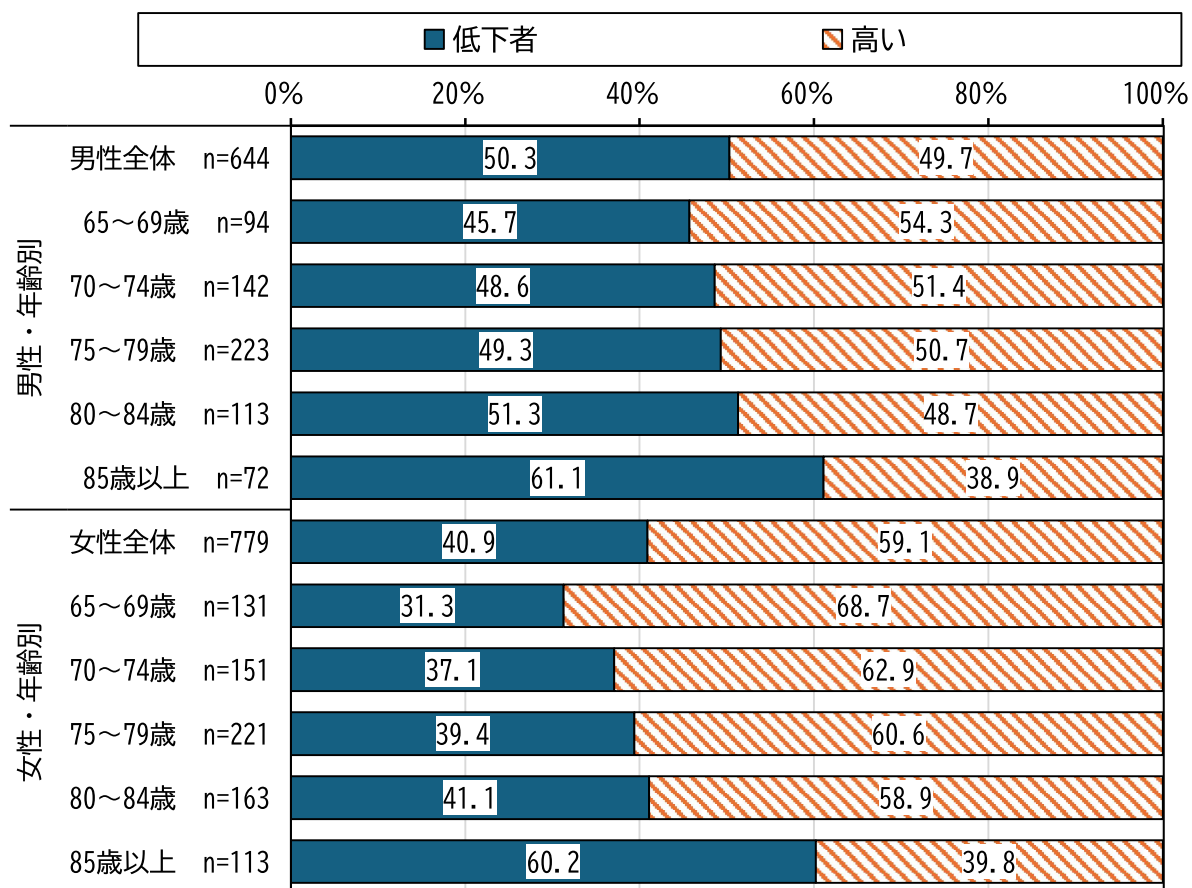
「低下者」を性・年齢別にみると、男性は女性に比べて高くなっています。また、男女ともに年齢が高くなるにしたがい上昇し、特に女性は85歳以上になると40%を超えます。



(2) 知的能動性

老研式活動能力指標のうち、知的能動性の「低下者」の割合は、男性が50.3%、女性が40.9%となっています。

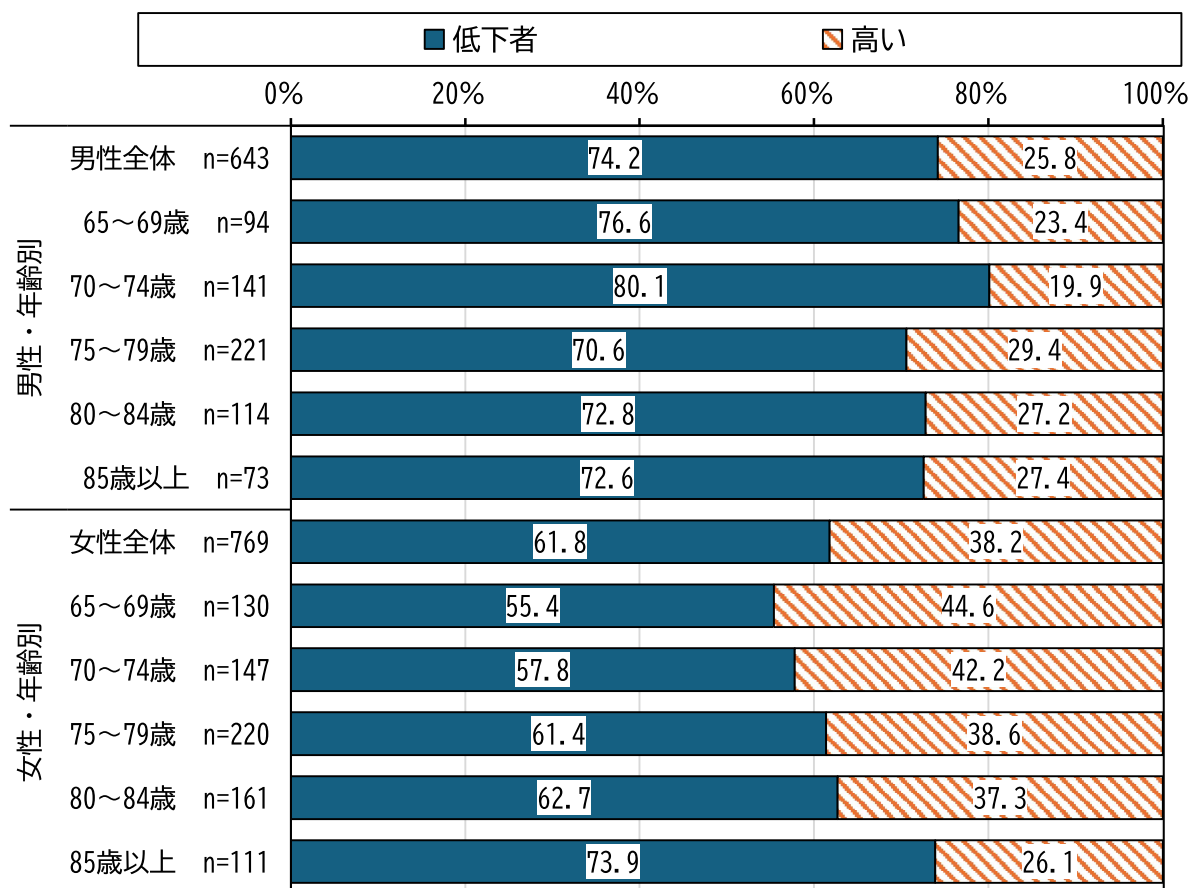
「低下者」を性・年齢別にみると、男性は女性に比べて高くなっています。また、男女ともに85歳以上になると急激に高くなります。



(3) 社会的役割

老研式活動能力指標のうち、社会的役割の「低下者」の割合は、男性が74.2%、女性が61.8%となっています。

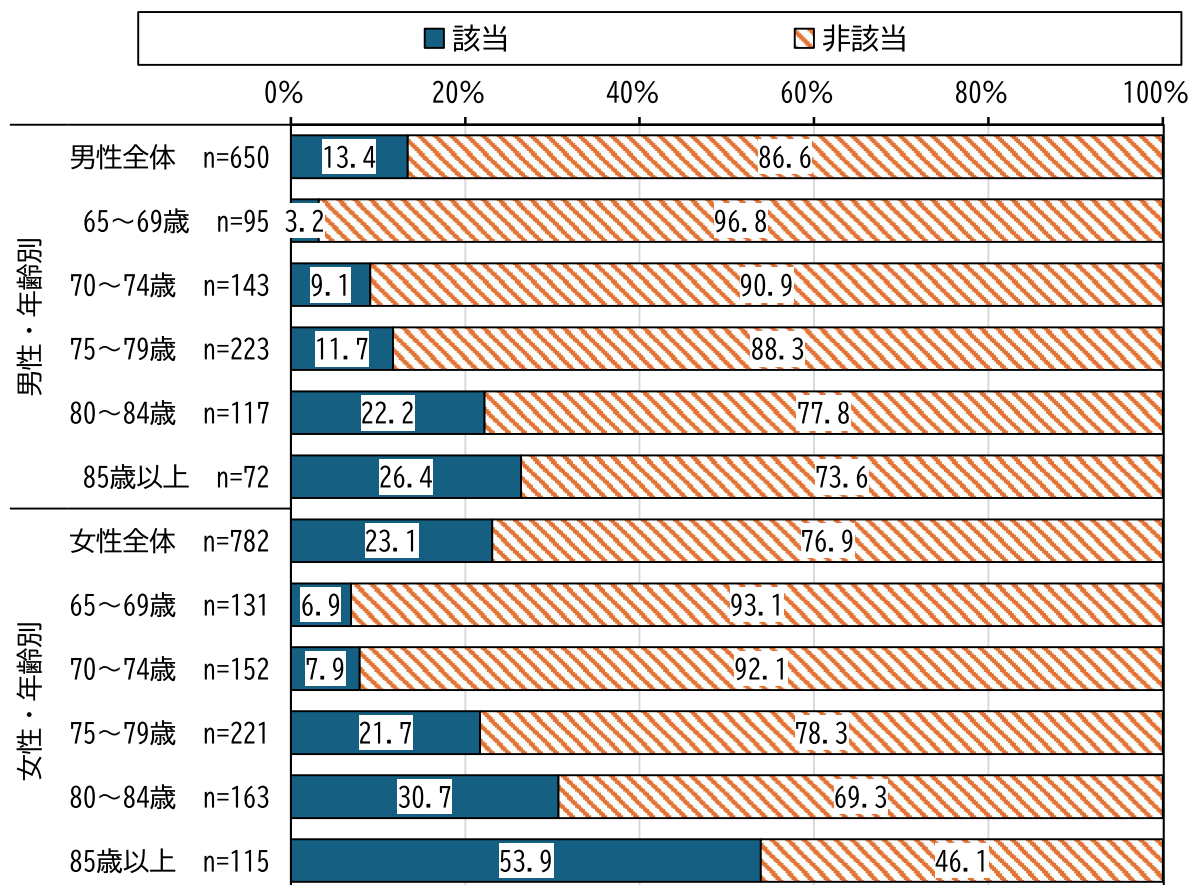
「低下者」を性・年齢別にみると、男性は女性に比べて高くなっています。また、女性は年齢が高くなるにしたがい上昇しています。



(4) 運動機能

運動機能の低下の該当者の割合は、男性が13.4%、女性が23.1%となっています。

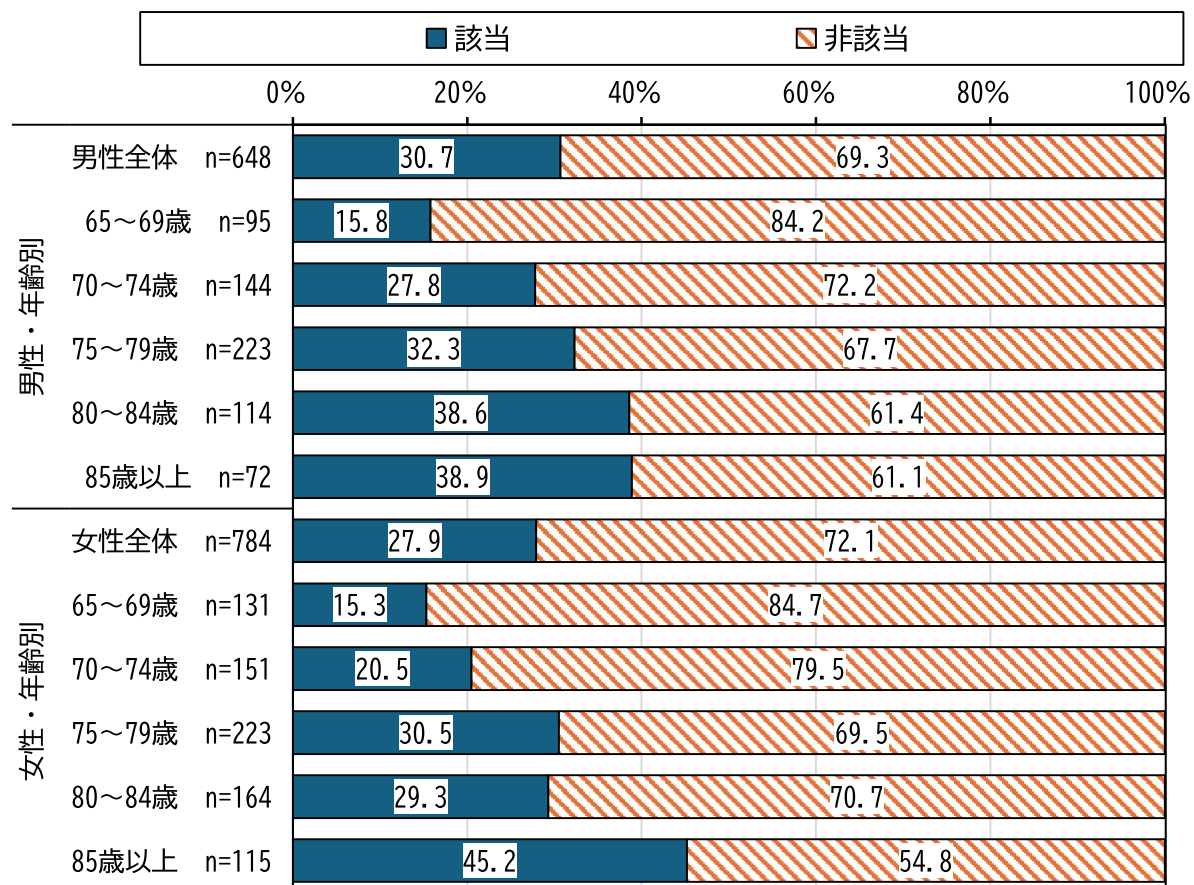
「該当」を性・年齢別にみると、女性は男性に比べて高くなっています。また、年齢が高くなるにしたがい上昇し、特に女性は85歳以上になると過半数を占めます。



(5) 口腔機能

口腔機能の低下の該当者の割合は、男性が30.7%、女性が27.9%となっています。

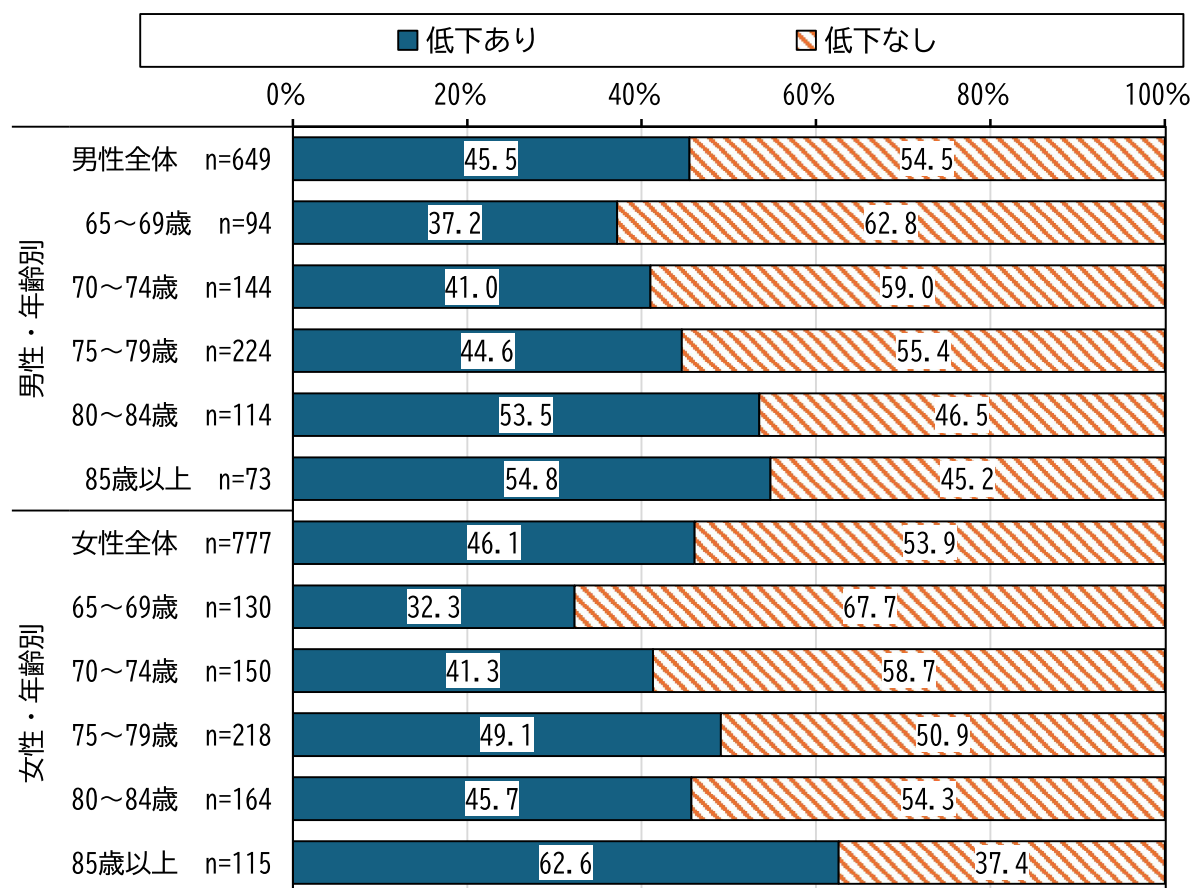
「該当」を性・年齢別にみると、男女ともに年齢が高くなるにしたがい上昇する傾向にあり、特に女性は85歳以上になると急激に上昇し、45.2%となります。



(6) 認知機能

認知機能の低下の該当者の割合は、男性が45.5%、女性が46.1%となっています。

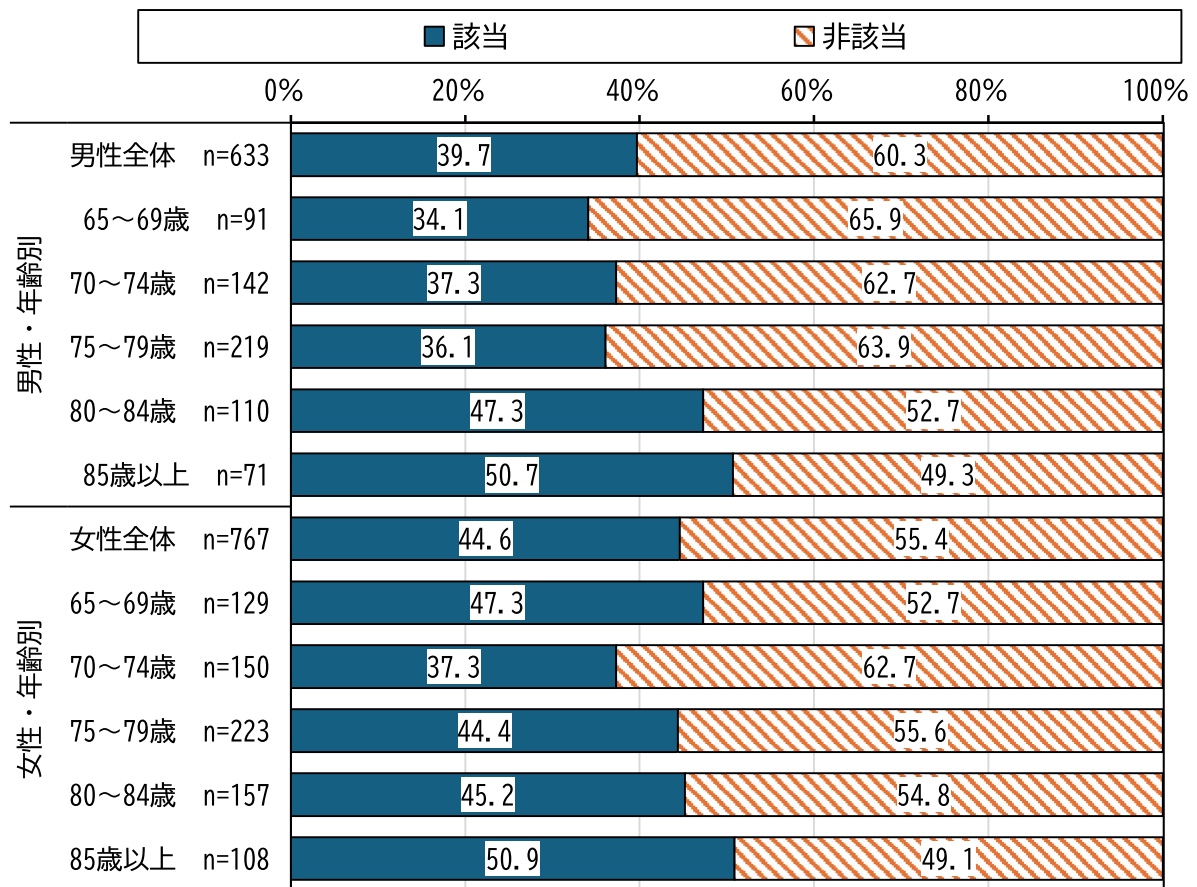
「該当」を性・年齢別にみると、男女ともに年齢が高くなるにしたがい上昇する傾向にあります。



(7) うつ傾向

うつ傾向の該当者の割合は、男性が39.7%、女性が44.6%となっています。

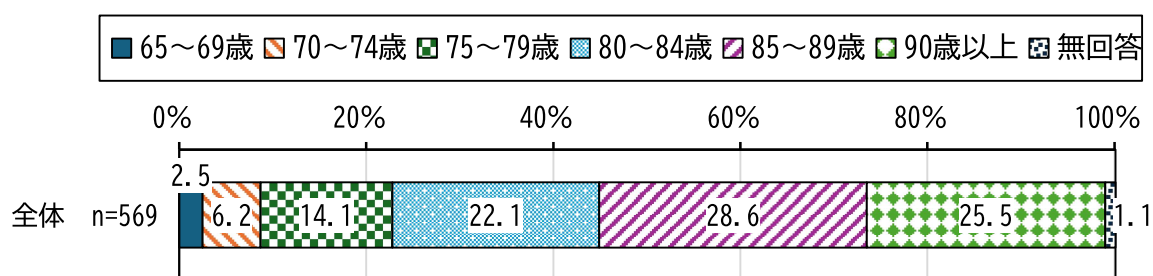
「該当」を性別にみると、女性は男性に比べて高くなっています。



Ⅲ 在宅介護実態調査の結果

1 要介護者の年齢

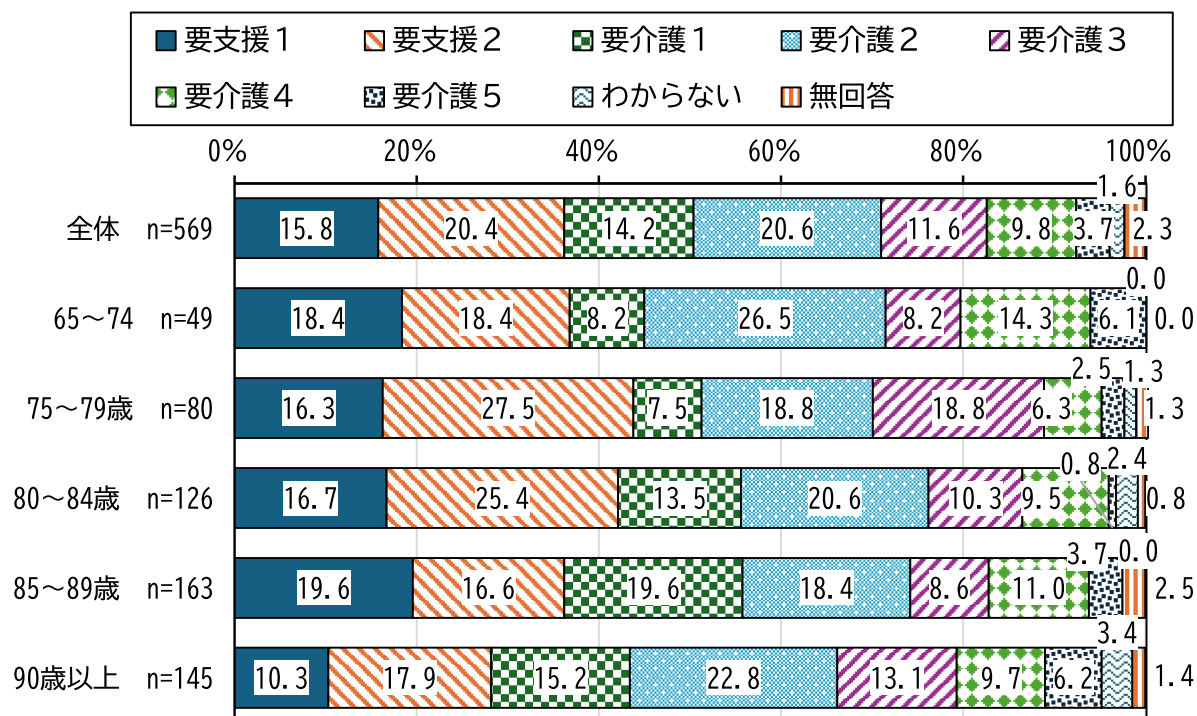
要介護者の年齢は「85～89歳」が28.6%と最も高く、次いで「90歳以上」が25.5%、「80～84歳」が22.1%となっており、これらを合計した〈80歳以上〉が76.2%を占めています。



2 要介護者の要介護度

要介護者の要介護度は「要介護2」が20.6%と最も高く、次いで「要支援2」が20.4%、「要支援1」が15.8%、「要介護1」が14.2%、「要介護3」が11.6%、「要介護4」が9.8%、「要介護5」が3.7%となっています。

年齢別にみると、90歳以上になると、〈要介護3～5〉が約30%となります。

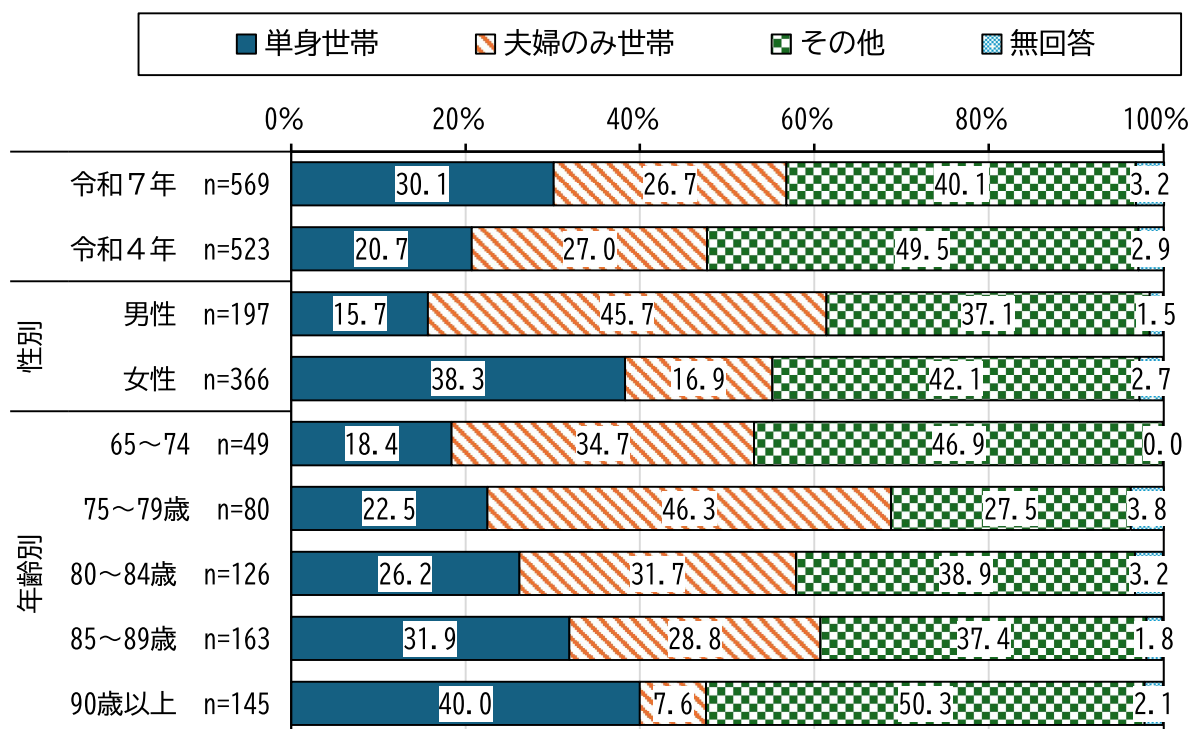


3 要介護者の家族構成

要介護者の家族構成は、子どもとの同居世帯を含む「その他」が40.1%と最も高く、次いで「単身世帯」が30.1%、「夫婦のみ世帯」が26.7%となっています。令和4年度調査と比較すると、「単身世帯」が上昇し、「その他」が低下しており、それぞれ9.4ポイントの差があります。

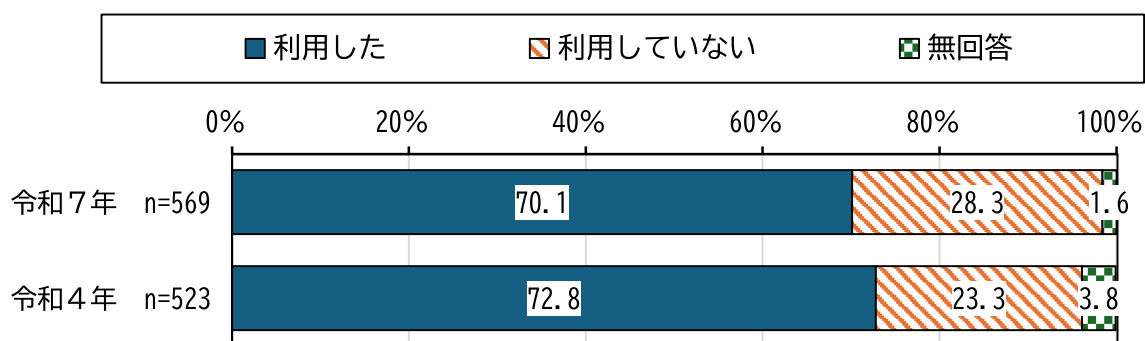
性別にみると、男性は女性に比べて「夫婦のみ世帯」が、女性は男性に比べて「単身世帯」および「その他」が高くなっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「単身世帯」が上昇し、90歳以上になると40.0%を占めています。



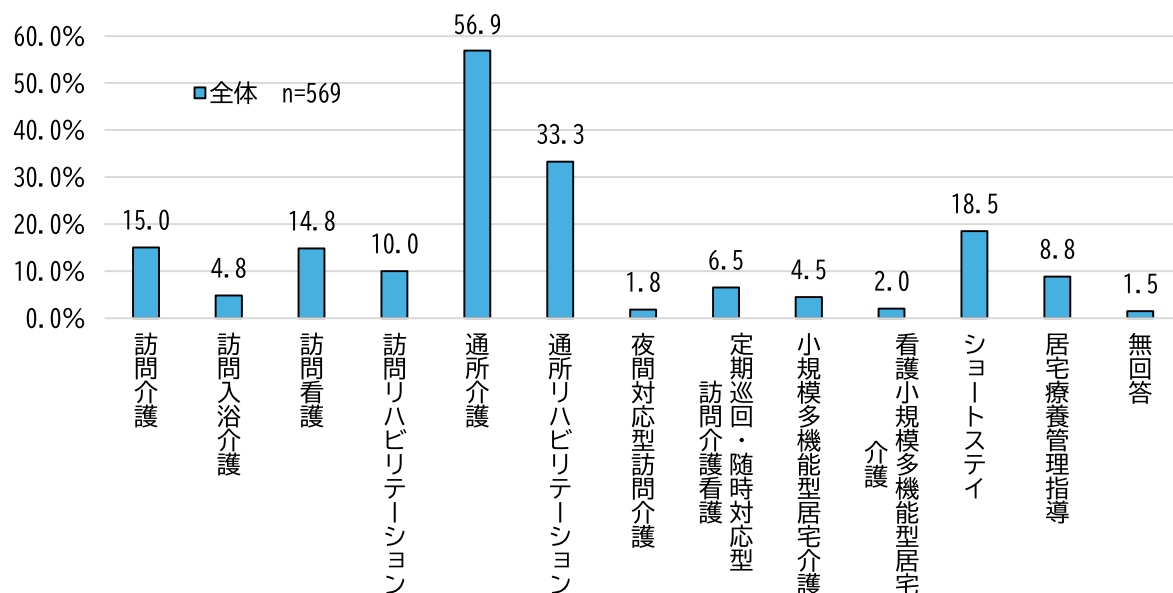
4 介護保険サービスの利用状況

令和7年12月の1か月間の介護保険サービスの利用率（「利用した」）は70.1%となっています。



5 利用した介護保険サービス

令和7年12月の1か月間に利用した介護保険サービスは「通所介護」が56.9%と最も高く、次いで「通所リハビリテーション」が33.3%、「ショートステイ」が18.5%、「訪問介護」が15.0%の順となっています。



6 介護保険サービスを利用していない理由

介護保険サービスを利用していない人に、その理由をたずねたところ、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が41.6%と最も高く、次いで「本人（要介護者）にサービス利用の希望がない」が26.7%、「家族が介護をするため必要ない」が11.8%の順となっています。

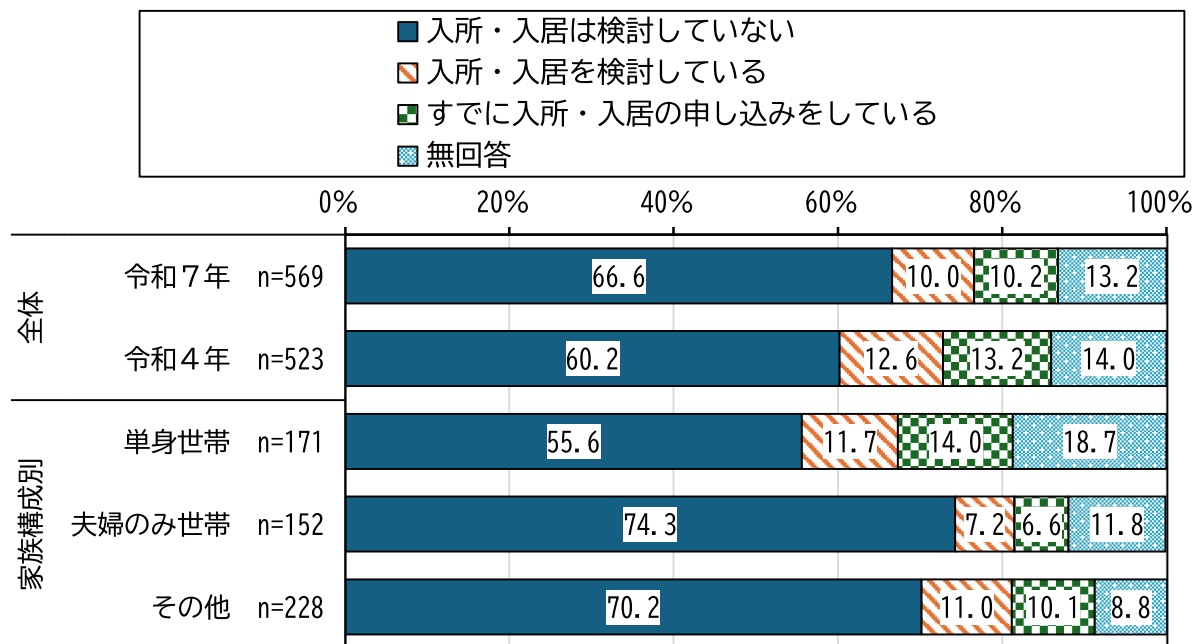
家族構成別にみると、夫婦のみ世帯はそれ以外の世帯に比べて「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人（要介護者）にサービス利用の希望がない」および「家族が介護をするため必要ない」が高くなっています。

		回答数	現状では、サービスを利用するほどの状態ではない	本人（要介護者）にサービス利用の希望がない	家族が介護をするため必要ない	以前、利用していたサービスに不満があった	利用料を支払うのが難しい	利用したいサービスが利用できない、身近にない	住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため	サービスを利用したいが手続きや利用方法が分からない	その他	無回答
全体	令和7年	161	41.6	26.7	11.8	3.7	4.3	0.6	8.7	3.7	16.1	18.6
	令和4年	122	33.6	34.4	23.0	3.3	4.1	0.8	6.6	8.2	25.4	11.5
家族構成別	単身世帯	58	39.7	24.1	5.2	3.4	0.0	1.7	0.0	1.7	12.1	29.3
	夫婦のみ世帯	37	48.6	37.8	21.6	0.0	8.1	0.0	8.1	5.4	8.1	10.8
	その他	58	41.4	24.1	13.8	6.9	5.2	0.0	15.5	5.2	25.9	13.8

7 施設入所の検討状況

施設入所の検討状況をたずねたところ、「入所・入居は検討していない」が66.6%と最も高く、次いで「すでに入所・入居の申し込みをしている」が10.2%、「入所・入居を検討している」が10.0%の順となっています。

家族構成別にみると、単身世帯は「すでに入所・入居の申し込みをしている」が、夫婦のみ世帯は「入所・入居は検討していない」がそれ以外の世帯に比べて高くなっています。



8 在宅生活を続けるために充実が必要なサービス

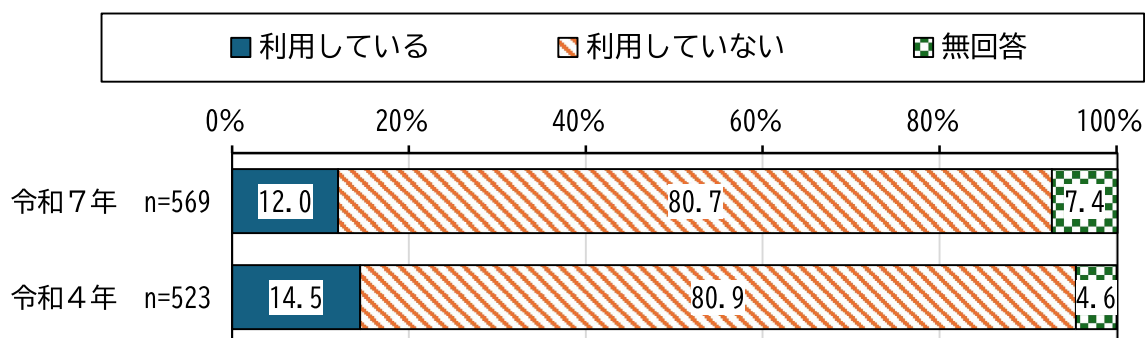
在宅生活を続けるために充実が必要なサービスをたずねたところ、「移送サービス（介護・福祉タクシーなど）」が25.8%と最も高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が20.7%、「配食」が18.3%、「見守り、声かけ」が16.7%の順となっています。

家族構成別にみると、単身世帯は全般的に高く、特に「配食」、「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシーなど）」および「見守り、声かけ」は25%前後の高い割合となっています。

		回答数	配食	調理	掃除・洗濯	買い物 (宅配は含まない)	ゴミ出し	外出同行 (通院、買い物など)
全体	令和7年	569	18.3	9.7	16.3	14.2	14.2	20.7
	令和4年	523	19.1	8.8	13.2	13.4	9.0	19.3
家族構成別	単身世帯	171	25.7	13.5	21.6	21.1	23.4	24.6
	夫婦のみ世帯	152	13.2	5.9	15.8	16.4	12.5	19.7
	その他	228	17.1	9.2	13.2	8.8	8.8	20.2
		回答数	移送サービス (介護・福祉 タクシーなど)	見守り、 声かけ	サロンなど の定期的な通い の場	その他	特になし	無回答
全体	令和7年	569	25.8	16.7	7.7	3.7	27.1	19.9
	令和4年	523	28.1	16.8	8.0	5.9	25.2	21.4
家族構成別	単身世帯	171	26.3	25.1	9.9	1.8	17.5	22.2
	夫婦のみ世帯	152	28.3	11.2	4.6	4.6	29.6	19.7
	その他	228	25.0	14.9	8.3	4.8	32.9	16.2

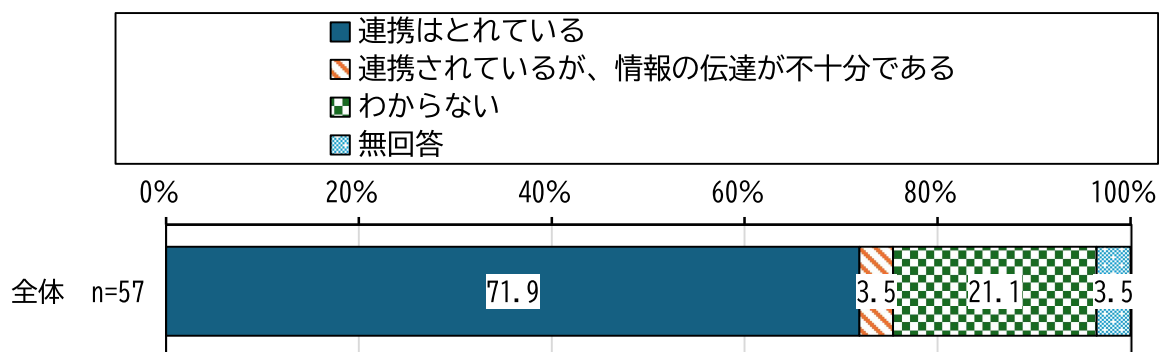
9 訪問診療の利用状況

現在の訪問診療の利用状況は、「利用している」が12.0%となっています。



10 訪問診療と介護保険サービスの連携

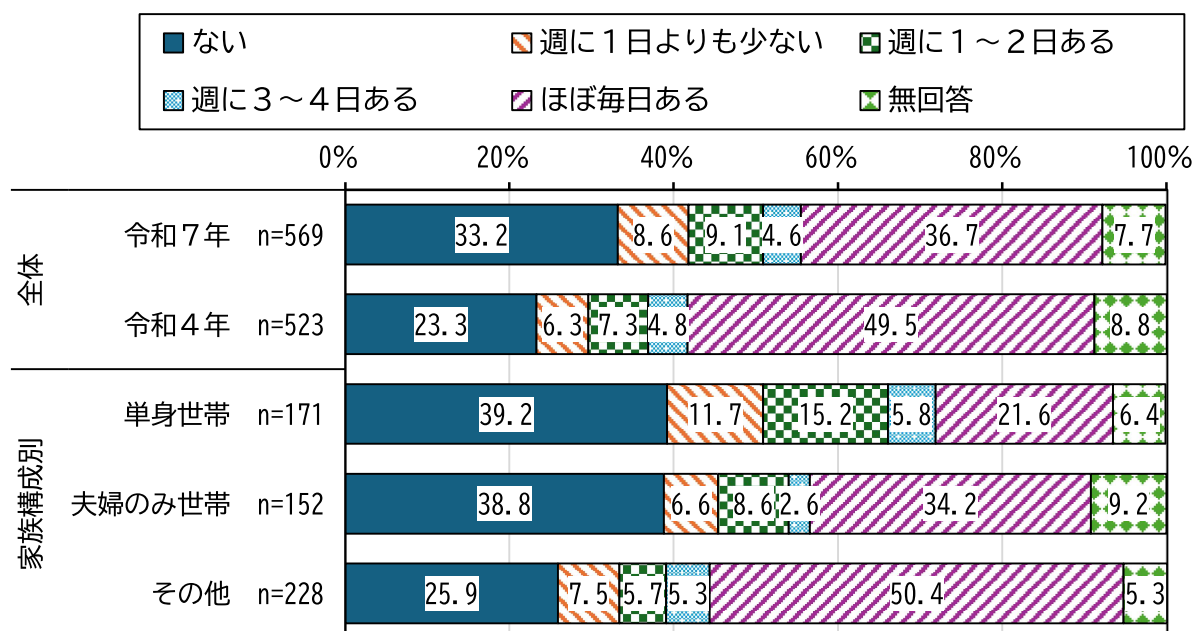
介護保険サービスと訪問診療のいずれも「利用している」と答えた人に、訪問診療と介護保険サービスの連携状況についてたずねたところ、「連携はとれている」が71.9%と最も高く、「連携されているが、情報の伝達が不十分である」が3.5%、「わからない」が21.1%の順となっています。



11 家族や親族から介護をしてもらう日数

家族や親族から介護をしてもらう日数をたずねたところ、「ほぼ毎日ある」が36.7%と最も高く、次いで「ない」が33.2%、「週に1～2日ある」が9.1%の順となっています。

家族構成別にみると、単身世帯は家族や親族から介護を受ける日数が少なくなっており、「ほぼ毎日ある」が低く、「週に1日よりも少ない」および「週に1～2日ある」が高くなっています。



12 主な介護者の年齢

主な介護者の年齢は、「60代」が33.3%と最も高く、次いで「50代」が26.2%、「70代」が17.6%、「80歳以上」が17.3%となっており、〈70歳以上〉が34.9%となっています。また、30 未満の人はいませんでした。

		回答数	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	わからない	無回答
全体	令和7年	336	0.0	0.6	3.0	26.2	33.3	17.6	17.3	0.0	2.1
	令和4年	355	0.3	1.1	5.9	25.6	24.5	20.0	21.1	0.3	1.1
家族構成別	単身世帯	93	0.0	2.2	1.1	41.9	39.8	6.5	3.2	0.0	5.4
	夫婦のみ世帯	79	0.0	0.0	0.0	12.7	13.9	30.4	40.5	0.0	2.5
	その他	157	0.0	0.0	5.1	22.9	40.1	18.5	13.4	0.0	0.0

13 主な介護者が不安に感じる介護

現在の生活を続けていくにあたり、主な介護者が不安に感じる介護をたずねたところ、「認知症状への対応」が36.6%と最も高く、次いで「夜間の排泄」が34.8%、「外出の付き添い、送迎など」が33.6%、「入浴・洗身」が33.0%の順となっており、身体介護が高い割合を占めています。

		回答数	身体介護								
			日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	身だしなみ（洗顔・歯磨きなど）	衣服の着脱	屋内での移乗・移動	外出の付き添い、送迎など	服薬
全体	令和7年	336	30.7	34.8	13.1	33.0	5.7	8.0	15.8	33.6	17.6
	令和4年	355	34.9	36.3	15.2	33.0	5.9	13.5	17.2	30.7	15.5
		回答数	身体介護		生活援助			その他			
			認知症状への対応	医療面での対応（経管栄養、ストーマなど）	食事の準備（調理など）	その他の家事（掃除、洗濯、買い物など）	金銭管理や生活面に必要な諸手続き	その他	不安に感じていることは、特になし	無回答	
全体	令和7年	336	36.6	6.5	26.8	28.9	28.9	6.0	3.9	4.8	
	令和4年	355	44.8	8.7	30.1	24.2	29.9	3.9	1.7	2.8	

14 介護のために、過去1年間に仕事を辞めたまたは転職した人はいるか

介護のために、過去1年間に仕事を辞めたまたは転職した人がいるかたずねたところ、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が61.6%と最も高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が6.5%の順となっています。

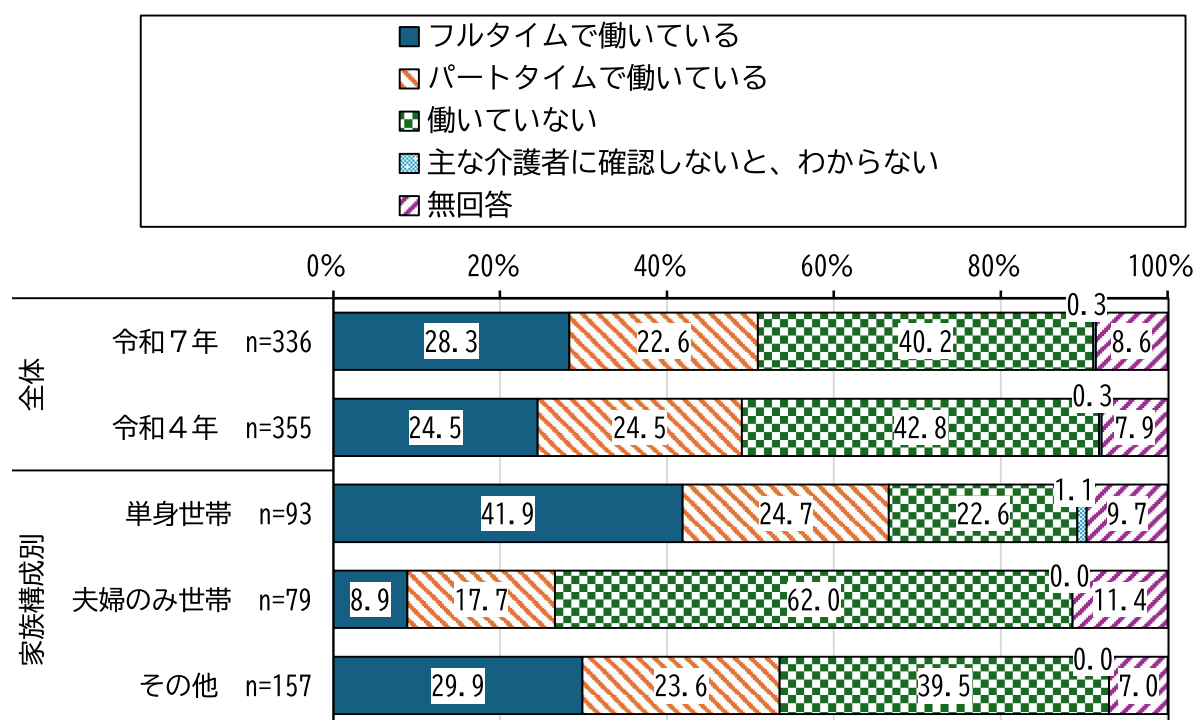
家族構成別にみると、夫婦のみ世帯は「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が低い割合となっています。

		回答数	主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）	主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）	主な介護者が転職した	主な介護者以外の家族・親族が転職した	介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	わからない	無回答
全体	令和7年	336	6.5	2.4	0.6	1.2	61.6	4.5	23.2
	令和4年	355	9.3	1.4	2.5	0.6	57.7	5.4	23.4
家族構成別	単身世帯	93	5.4	1.1	1.1	0.0	69.9	3.2	19.4
	夫婦のみ世帯	79	6.3	1.3	0.0	1.3	51.9	3.8	35.4
	その他	157	6.4	3.8	0.6	1.9	62.4	5.7	19.1

15 主な介護者の勤務形態

主な介護者の勤務形態は「働いていない」が40.2%と最も高く、次いで「フルタイムで働いている」が28.3%、「パートタイムで働いている」が22.6%となっています。

家族構成別にみると、単身世帯は「フルタイムで働いている」が、夫婦のみ世帯およびその他の世帯は「働いていない」がそれぞれ最も高くなっています。



16 介護をするにあたり、働き方の調整をしているか

現在、フルタイムまたはパートタイムで働いている人に、介護をするにあたって、働き方の調整などを行っているかたずねたところ、「介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている」が37.4%と最も高く、次いで「特に調整していない」が31.6%、「介護のために、「休暇」を取りながら、働いている」が30.4%の順となっています。

家族構成別にみると単身世帯は「特に調整していない」が、夫婦のみ世帯およびその他の世帯は「介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている」がそれぞれ最も高くなっています。

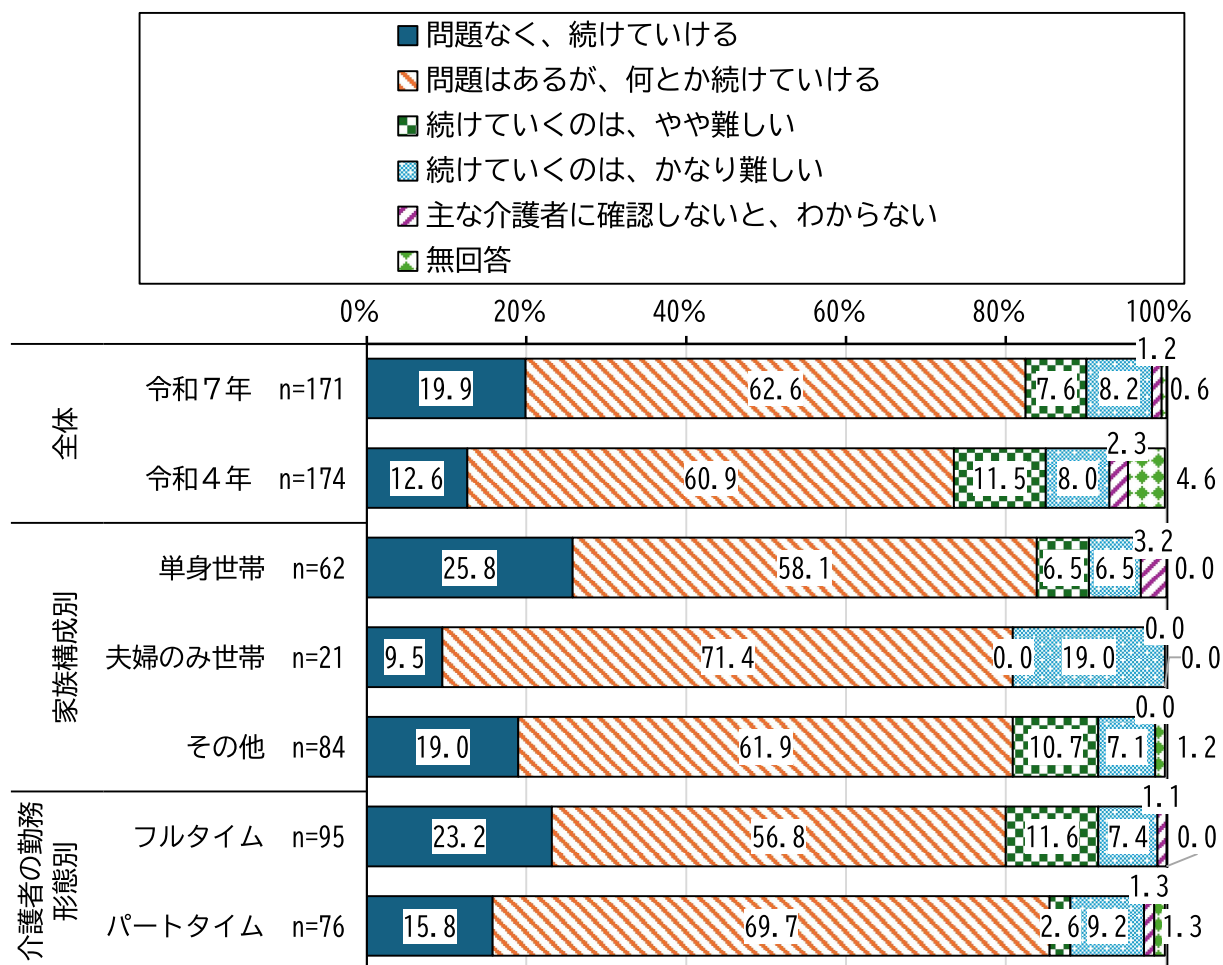
主な介護者の勤務形態別にみると、フルタイムはパートタイムに比べて「特に調整していない」が、パートタイムはフルタイムに比べて「介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている」が低くなっています。

		回答数	特に調整 していない	介護のた めに、 「労働時 間を調 整」しな がら、働 いている (2)	介護のた めに、 「休暇」 を取りな がら、働 いている (3)	介護のた めに、 「在宅勤 務」を利 用しなが ら、働い ている (4)	介護のた めに、2 ～4以外 の調整を しながら 働いて いる	主な介護 者に確認 しないと、わ からない	無回答
全体	令和7年	171	31.6	37.4	30.4	5.8	14.0	0.6	1.2
	令和4年	174	19.5	50.6	30.5	8.6	15.5	0.6	3.4
家族 構成別	単身世帯	62	40.3	27.4	29.0	9.7	11.3	1.6	0.0
	夫婦のみ世帯	21	9.5	71.4	47.6	0.0	9.5	0.0	0.0
	その他	84	31.0	35.7	27.4	4.8	16.7	0.0	2.4
介護者の 勤務形態 別	フルタイム	95	37.9	33.7	29.5	9.5	9.5	0.0	1.1
	パートタイム	76	23.7	42.1	31.6	1.3	19.7	1.3	1.3

17 働きながら介護を続けていけそうか

働きながら介護を続けていけそうかたずねたところ、「問題はあるが、何とか続けていける」が62.6%と最も高く、次いで「問題なく、続けていける」が19.9%となっています。また、「続けていくのは、やや難しい」（7.6%）と「続けていくのは、かなり難しい」（8.2%）を合計した〈続けていくのは難しい〉は15.8%です。

介護者の勤務形態別にみると、フルタイムはパートタイムに比べて〈続けていくのは難しい〉が7.2ポイント高くなっています。



18 介護を続けていくうえで困ることや不安に感じること

主な介護者が介護を続けていくうえで困ることや不安に感じることをたずねたところ、「いつまで介護が続くかわからないこと」が58.9%と最も高く、次いで「災害時における避難や避難先での生活について」が45.2%、「自分が病気などのとき、介護を代わってくれる人がいないこと」が41.4%、「介護によるストレスを解消できないこと」が30.7%、「仕事と介護を両立すること」が27.7%の順となっています。

令和4年度調査と比較すると、「災害時における避難や避難先での生活について」が上昇し、「いつまで介護が続くかわからないこと」および「介護によるストレスを解消できないこと」が低下しています。

		回答数	介護の方法について	いつまで介護が続くかわからないこと	子育てをしながら介護をすること	買い物など、日常生活に必要な外出ができないこと	仕事と介護を両立すること	経済的なゆとりがなく、介護保険サービスを利用できないこと	介護をするために収入が減少し、経済的に苦しいこと	休む暇がなく、身体的な負担が大きいこと	介護によるストレスを解消できないこと	心にゆとりがなく、要介護者に辛くあたってしまうこと
全体	令和7年	336	19.9	58.9	1.2	12.5	27.7	8.6	13.1	24.7	30.7	22.3
	令和4年	355	20.6	63.9	2.5	13.0	24.8	7.0	13.8	24.5	38.0	27.6
		回答数	自分が病気などのとき、介護を代わってくれる人がいないこと	地域のひととの交流が少なく、頼れる人がいないこと	介護について相談する相手がいないこと	要介護者が2人以上いること	本人（要介護者）が介護保険サービスを利用したがないこと	災害時における避難や避難先での生活について	その他	特に困ることや不安に感じることはない	無回答	
全体	令和7年	336	41.4	9.2	2.7	7.1	7.1	45.2	3.3	3.0	6.3	
	令和4年	355	43.1	6.5	5.1	5.9	11.3	37.7	3.7	2.8	5.6	

19 介護を続けるうえで市に望む支援

主な介護者が介護を続けるうえで市に望む支援をたずねたところ、「施設サービスの充実」が40.5%と最も高く、次いで「経済的な支援」が39.3%、「在宅介護サービスの充実」が37.8%の順となっています。

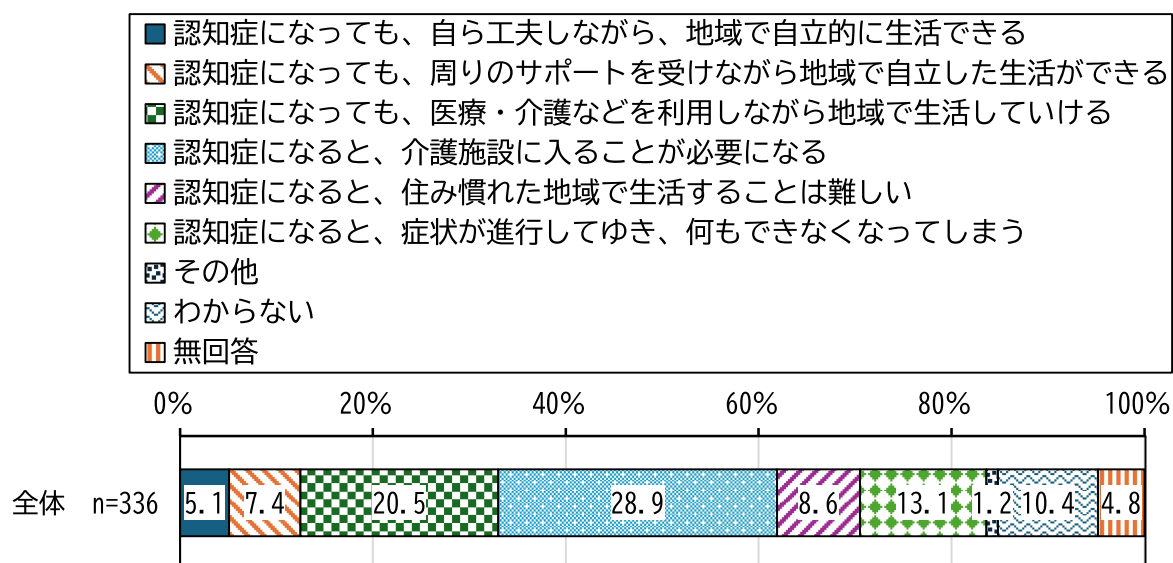
令和4年度調査と比較すると、「ショートステイや訪問介護等による介護者支援の充実」が6.6ポイント低くなっています。

		回答数	在宅介護サービスの充実	住宅改修に対する支援の充実	地域包括支援センターなど、相談に対応するための窓口の充実	介護者教室や福祉講演会の充実	地域における見守り体制の強化	最期まで自宅で見守ることができる体制の充実	悩みや不安を共有できる、介護者同士の集いの場の充実	ショートステイや訪問介護等による介護者支援の充実
全体	令和7年	336	37.8	16.7	16.1	3.6	18.8	29.8	6.0	28.9
	令和4年	355	38.0	15.2	15.5	6.2	15.5	31.5	7.9	35.5
		回答数	医療と介護の連携強化	施設サービスの充実	経済的な支援	その他	わからない	希望することは特にない	無回答	
全体	令和7年	336	27.7	40.5	39.3	1.8	4.5	3.3	7.1	
	令和4年	355	32.4	37.7	39.4	1.7	4.5	1.4	8.7	

20 認知症に対するイメージ

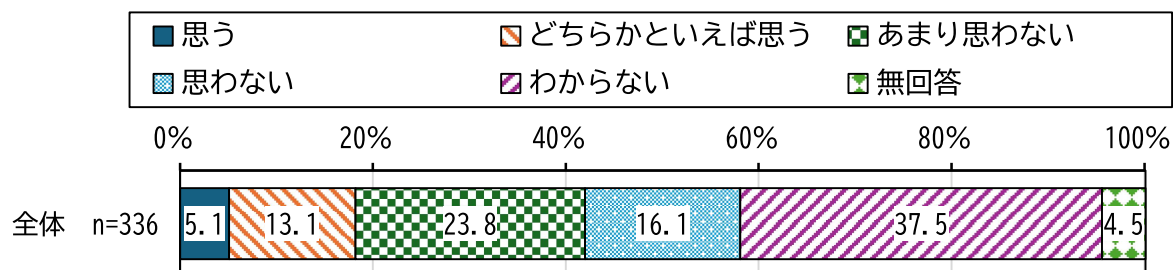
認知症に対するイメージをたずねたところ、「認知症になると、介護施設に入ることが必要になる」が28.9%と最も高く、次いで「認知症になっても、医療・介護などを利用しながら地域で生活していける」が20.5%の順となっています。

「認知症になっても、自ら工夫しながら、地域で自立的に生活できる」、「認知症になっても、周りのサポートを受けながら地域で自立した生活ができる」、「認知症になっても、医療・介護などを利用しながら地域で生活していける」を合計した〈認知症になっても地域で生活できる〉は33.0%です。



21 新しい認知症観

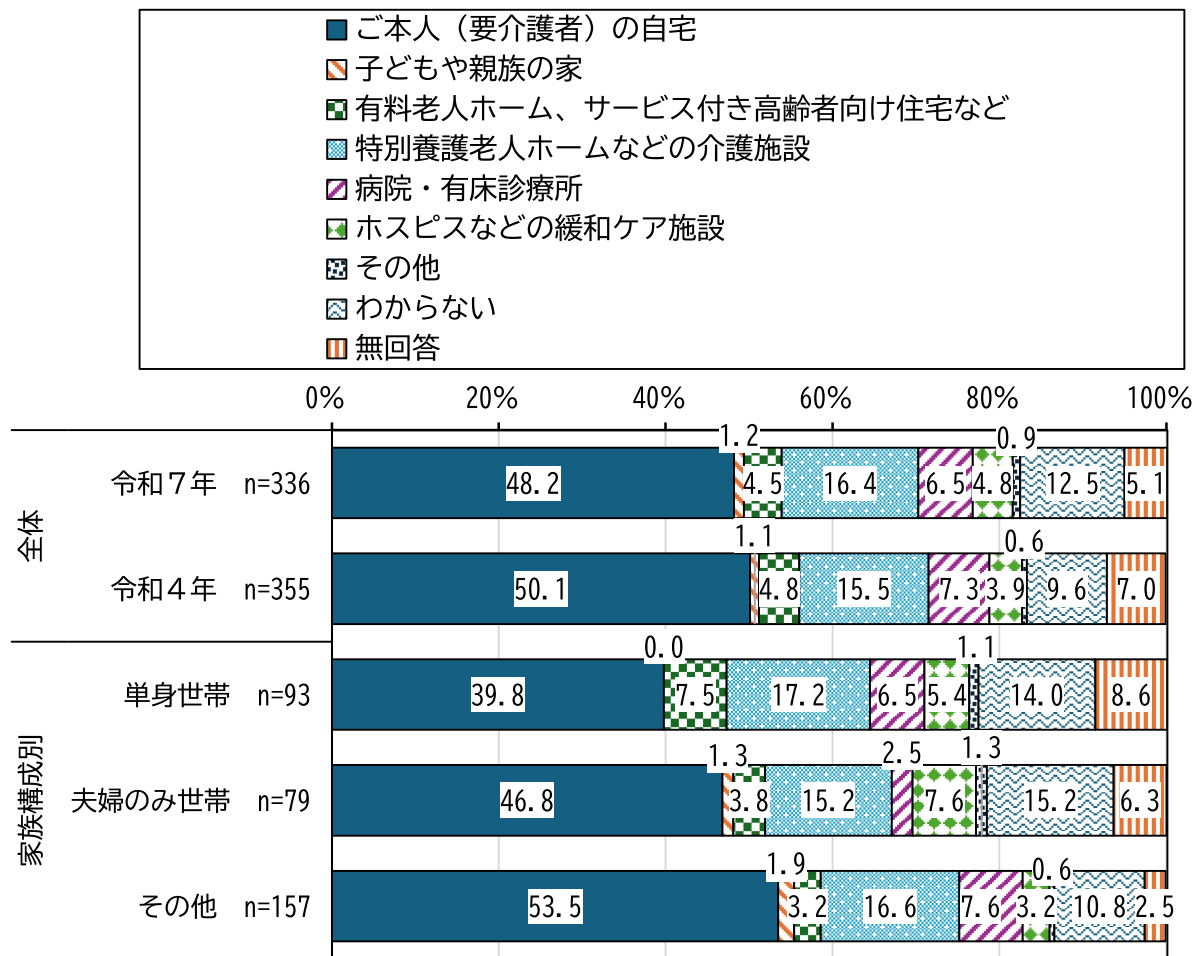
愛西市は、認知症になっても希望を持って自分らしく暮らせるまちだと思うかたずねたところ、「わからない」が37.5%と最も高く、次いで「あまり思わない」(23.8%)の順となっており、「思う」と「どちらかといえば思う」を合計した〈思う〉が18.2%、「あまり思わない」と「思わない」を合計した〈思わない〉が39.9%となっています。



22 終末期を過ごす際に希望する療養場所

主な介護者に、調査対象者が終末期を過ごす際に希望する療養場所はどこかたずねたところ、「ご本人（要介護者）の自宅」が48.2%と最も高く、次いで「特別養護老人ホームなどの介護施設」が16.4%の順となっています。また、「ご本人（要介護者）の自宅」と「子どもや親族の家」を合計した〈自宅〉は49.4%です。

家族構成別にみると、単身世帯は〈自宅〉が39.8%の低い割合となっています



23 自宅で終末期を迎えるために必要な支援

終末期を自宅で過ごしたいと答えた人に、自宅で終末期を迎えるためにどのような支援が必要かたずねたところ、「かかりつけ医の往診」が53.6%と最も高く、次いで「訪問看護（看護師の訪問）」および「24 時間緊急時に医療などの対応をしてくれる医療機関」が53.0%の順となっています。

令和4年度調査と比較すると、全般的に低下傾向にあります

		回答数	かかりつけ医の往診	訪問看護（看護師の訪問）	訪問介護（ホームヘルパーの訪問）	医療提供者と介護事業者などの連携支援	24時間緊急時に医療などの対応をしてくれる医療機関	自宅での療養全般に関する相談にのってくれる相談員の訪問	ボランティアなどのサポート
全体	令和7年	166	53.6	53.0	34.3	27.1	53.0	26.5	6.6
	令和4年	182	67.6	61.0	39.0	36.3	63.7	36.3	8.8
		回答数	近所の人 の訪問	介護してくれる家族や親族の存在	居住環境の整備	医療費、介護費用などの経済支援	その他	わからない	無回答
全体	令和7年	166	1.8	43.4	16.9	38.6	0.6	1.8	4.8
	令和4年	182	2.2	39.6	15.4	41.8	1.6	1.6	2.2

IV 介護保険事業者調査の結果

1 職員の状況

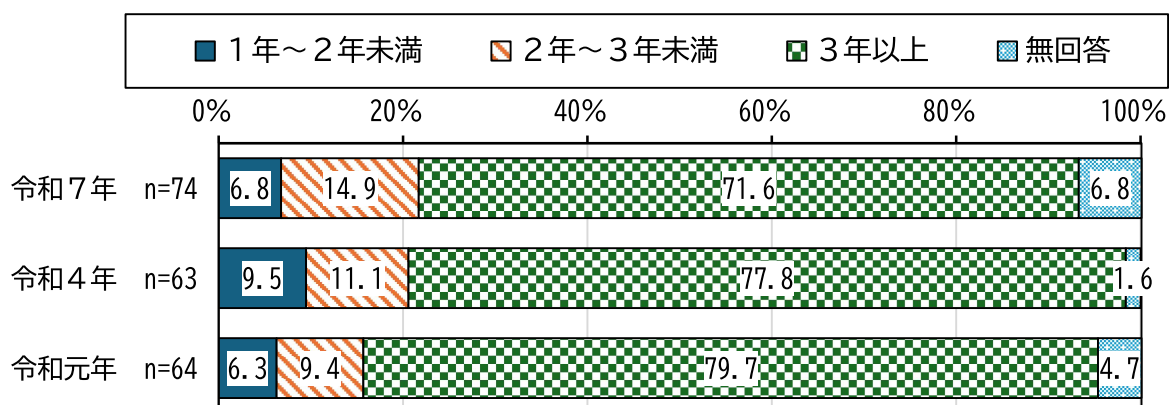
事業所の常勤職員の状況をたずねたところ、平均人数は、①訪問介護員が3.00人、②介護職員（①を除く）が9.42人、③看護職員が3.23人、④機能訓練指導員が1.74人、⑤介護支援専門員が1.16人、⑥生活相談員が1.44人、⑦その他の職員が1.83人となっており、訪問介護員を除く介護職員が多いことがわかります。

事業所の非常勤職員の状況をたずねたところ、平均人数は、①訪問介護員が4.14人、②介護職員（①を除く）が6.50人、③看護職員が2.59人、④機能訓練指導員が1.48人、⑤介護支援専門員が0.21人、⑥生活相談員が0.31人、⑦その他の職員が3.33人となっており、常勤職員同様に訪問介護員を除く介護職員が多いことがわかります。

区分	常勤職員		非常勤職員	
	n	平均 (人)	n	平均 (人)
①訪問介護員	42	3.00	42	4.14
（うち介護福祉士）	32	3.13	29	2.66
②介護職員（①を除く）	52	9.42	48	6.50
③看護職員	52	3.23	59	2.59
④機能訓練指導員	50	1.74	44	1.48
⑤介護支援専門員	43	1.16	33	0.21
⑥生活相談員	52	1.44	35	0.31
⑦その他の職員	46	1.83	48	3.33

2 職員の平均勤続年数

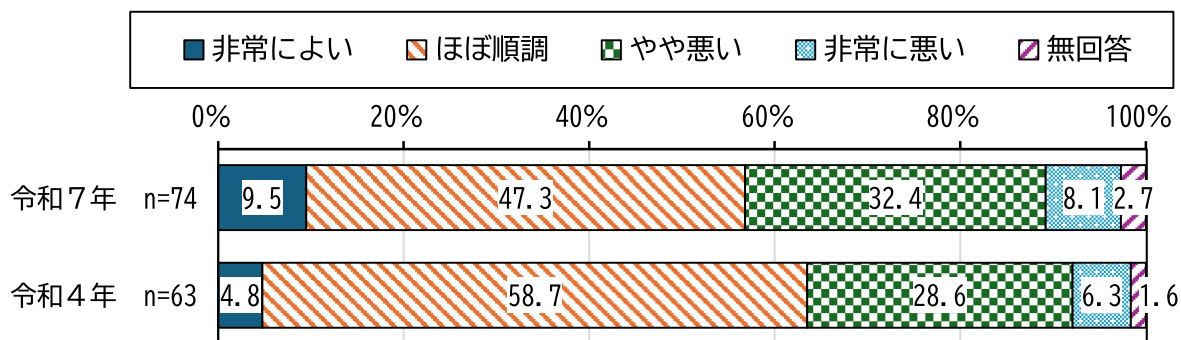
職員の平均勤続年数は、「3年以上」が71.6%と最も高く、次いで「2年～3年未満」が14.9%、「1年～2年未満」が6.8%となっています。経年でみると「2年～3年未満」が上昇し、「3年以上」が低下しています。



3 事業所の運営状況

事業所の運営状況をたずねたところ、「非常によい」（9.5%）と「ほぼ順調」（47.3%）を合計した〈運営状況は良好〉が56.8%となっています。一方で、「やや悪い」（32.4%）と「非常に悪い」（8.1%）を合計した〈運営状況に課題がある〉は40.5%となっています。

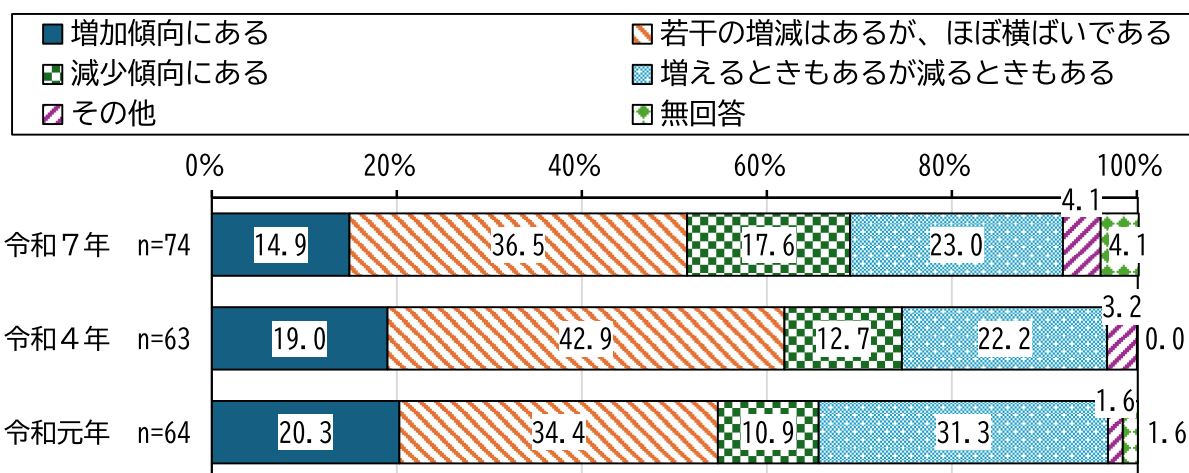
令和4年度調査と比較すると、〈運営状況に課題がある〉が上昇し、〈運営状況は良好〉が低下しています。



4 過去1年間の利用者数の状況

過去1年間の利用者数の状況をたずねたところ、「若干の増減はあるが、ほぼ横ばいである」が36.5%と最も高く、次いで「増えるときもあるが減るときもある」が23.0%となっています。

経年でみると、「減少傾向にある」が上昇し、「増加傾向にある」が低下しています。



5 事業所を運営するにあたり課題となっていること

事業所を運営するにあたり課題となっていることは「職員の確保」が79.7%と最も高く、次いで「利用者の確保」が64.9%、「介護報酬の低さ」が50.0%、「職員の資質向上」が33.8%の順となっています。

経年でみると、「介護報酬の低さ」および「利用者、家族からの苦情や事故の対応」が上昇し、「職員の資質向上」および「多職種との連携」が低下しています。

		回答数	利用者の確保	介護報酬の低さ	職員の確保	施設・設備の改善	利用者、家族からの苦情や事故の対応	職員の資質向上
全体	令和7年	74	64.9	50.0	79.7	31.1	8.1	33.8
	令和4年	63	52.4	44.4	73.0	25.4	7.9	52.4
	令和元年	64	57.8	32.8	85.9	28.1	6.3	62.5
		回答数	多職種との連携	利用者、家族の制度に対する理解の促進	医療機関との連携	その他	特になし	無回答
全体	令和7年	74	16.2	10.8	10.8	0.0	1.4	1.4
	令和4年	63	17.5	11.1	14.3	0.0	1.6	0.0
	令和元年	64	20.3	9.4	14.1	1.6	1.6	1.6

6 過去1年間の採用者数と離職者数の平均人数

過去1年間の採用者数と離職者数の平均人数をみると、①訪問介護員（うち介護福祉士）を除いて採用者数が離職者数を上回っています。

区分	採用者		離職者	
	n	平均(人)	n	平均(人)
①訪問介護員	36	1.25	38	0.97
（うち介護福祉士）	20	0.45	24	0.71
②介護職員（①を除く）	46	2.22	43	1.74
③看護職員	36	1.06	36	0.81
④機能訓練指導員	30	0.47	26	0.19
⑤介護支援専門員	30	0.23	27	0.15
⑥生活相談員	34	0.26	30	0.23
⑦その他の職員	38	1.16	37	1.03

7 事業所で特に不足している職種

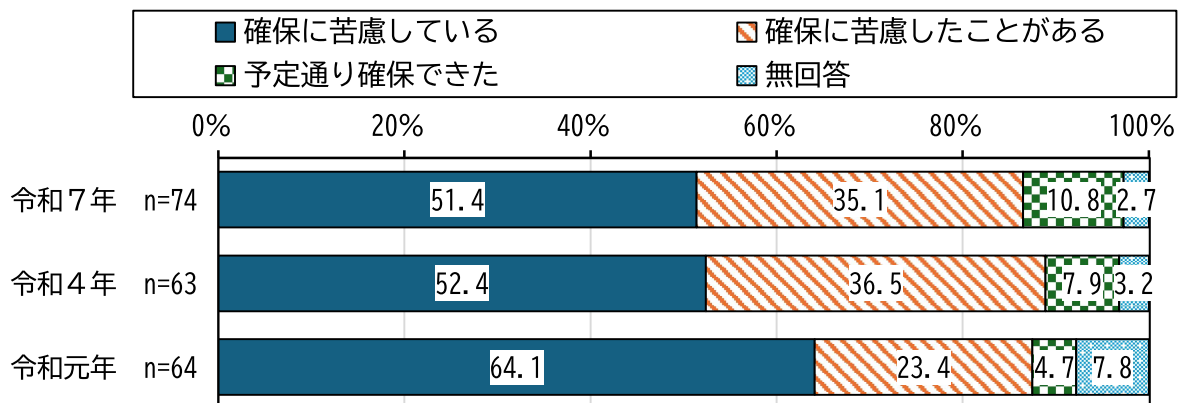
事業所で特に不足している職種は「介護職員（訪問介護員以外）」が36.5%と最も高く、次いで「訪問介護員」が23.0%、「看護職員」が20.3%、「機能訓練指導員（PT、OT、ST等）」が13.5%の順となっています。

令和4年度調査と比較すると「介護職員（訪問介護員以外）」が9.5ポイント低下しています。

		回答数	訪問介護員	介護職員（訪問介護員以外）	看護職員	機能訓練指導員（PT、OT、ST等）	介護支援専門員（計画作成担当者）	生活相談員	サービス提供責任者	その他	特にない	無回答
全体	令和7年	74	23.0	36.5	20.3	13.5	2.7	8.1	6.8	0.0	18.9	1.4
	令和4年	63	20.6	46.0	25.4	11.1	4.8	6.3	6.3	3.2	15.9	3.2

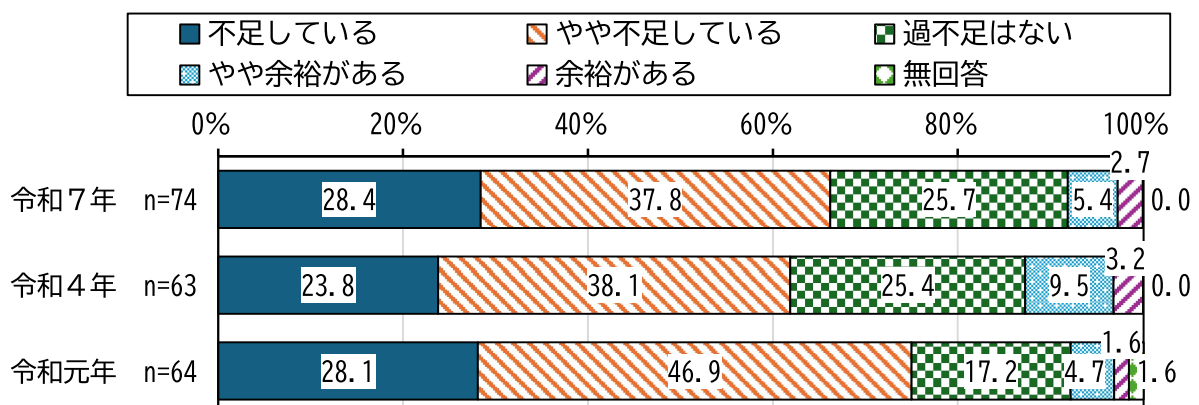
8 介護職員の確保に苦慮したことがあるか

介護職員の確保に苦慮したことがあるかたずねたところ、「確保に苦慮している」が過半数を占めていますが、経年でみると低下しています。



9 現在、職員数の過不足はあるか

現在、職員数の過不足があるかたずねたところ、「やや不足している」が37.8%と最も高く、これに「不足している」（28.4%）を加えた〈不足〉が66.2%となっています。また、「やや余裕がある」（5.4%）と「余裕がある」（2.7%）を合計した〈充足〉が8.1%となっています。



10 研修・教育などに関して困っていること

研修・教育などに関して困っていることをたずねたところ、「人材育成のための時間がない」が52.7%と最も高く、次いで「指導を出来る人材が少ない、または、いない」が41.9%、「従業員の自己啓発への意欲が低い」が35.1%、「研修を受講させる人的余裕がない」が25.7%の順となっています。

経年でみると「育成してもすぐに辞めてしまう」が上昇し、「人材育成のための時間がない」、「採用時期が別々で効率的な育成ができない」および「研修を受講させる人的余裕がない」が低下しています。また、令和4年度調査と比較すると「指導を出来る人材が少ない、または、いない」が10.2ポイント上昇しています。

		回答数	人材育成のための時間がない	人材育成のための費用に余裕がない	従業員の自己啓発への意欲が低い	事業者や法人内における人材育成の優先順位が低い	指導を出来る人材が少ない、または、いない	採用時期が別々で効率的な育成ができない	育成してもすぐに辞めてしまう	研修を受講させる人的余裕がない	その他	特になし	無回答
全体	令和7年	74	52.7	13.5	35.1	9.5	41.9	9.5	17.6	25.7	1.4	10.8	2.7
	令和4年	63	57.1	20.6	33.3	4.8	31.7	11.1	14.3	33.3	0.0	17.5	0.0
	令和元年	64	57.8	17.2	39.1	7.8	35.9	23.4	10.9	43.8	0.0	12.5	0.0

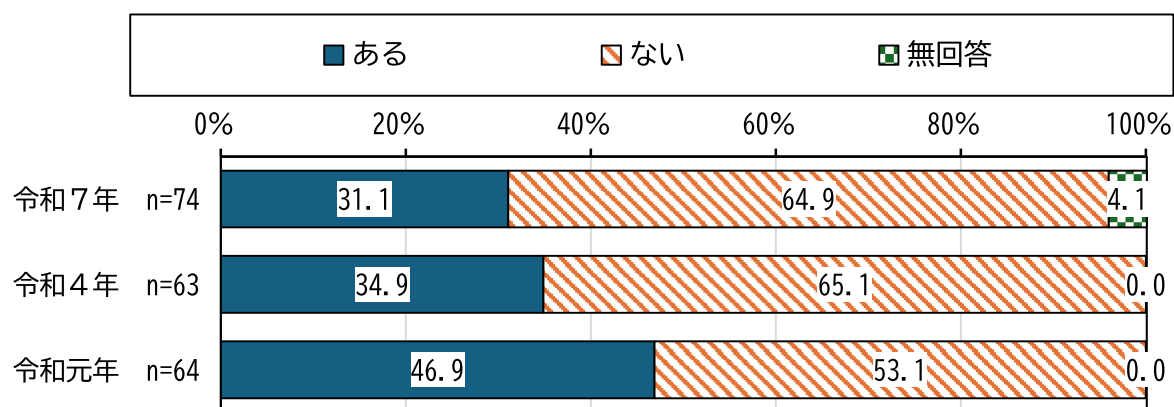
11 介護保険サービス事業を行ううえでの問題点や課題

介護保険サービス事業を行ううえでの問題点や課題をたずねたところ、「人材（職員）の確保が困難」が81.1%と最も高く、次いで「介護報酬単価が低い」が63.5%、「利用者の確保が困難」が54.1%の順となっています。令和4年度調査と比較すると、全般的に上昇傾向にあり、特に「介護報酬単価が低い」は20ポイント以上の差があります。

		回答数	利用者の確保が困難	人材（職員）の確保が困難	職員の福利厚生などが不十分	介護報酬請求事務の負担が大きい	介護報酬単価が低い	介護報酬に反映されない事務などの負担が多い	運営・運転資金の確保が困難	事務所の確保や維持が困難	その他	特になし	無回答
全体	令和7年	74	54.1	81.1	18.9	23.0	63.5	44.6	25.7	1.4	4.1	1.4	1.4
	令和4年	63	47.6	76.2	19.0	22.2	41.3	33.3	11.1	0.0	3.2	1.6	0.0
	令和元年	64	48.4	90.6	18.8	18.8	45.3	53.1	12.5	3.1	0.0	1.6	0.0

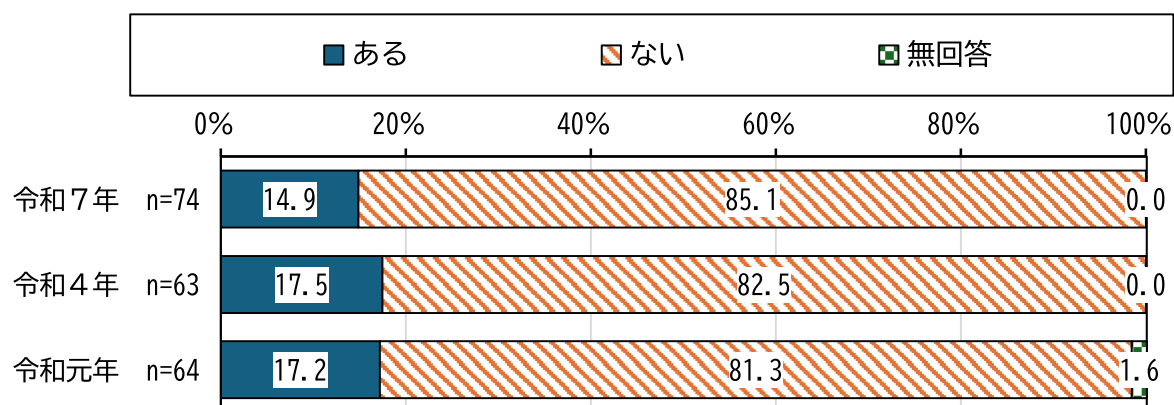
12 地域包括支援センターに相談したことがあるか

地域包括支援センターに相談したことがあるのは31.1%となっており、経年でみると低下しています。



13 過去1年間で、サービスを提供している要介護認定者の中に虐待を受けている事例があるか

過去1年間で、サービスを提供している要介護認定者の中に虐待を受けている、または受けていると思われる事例があるのは14.9%となっています。



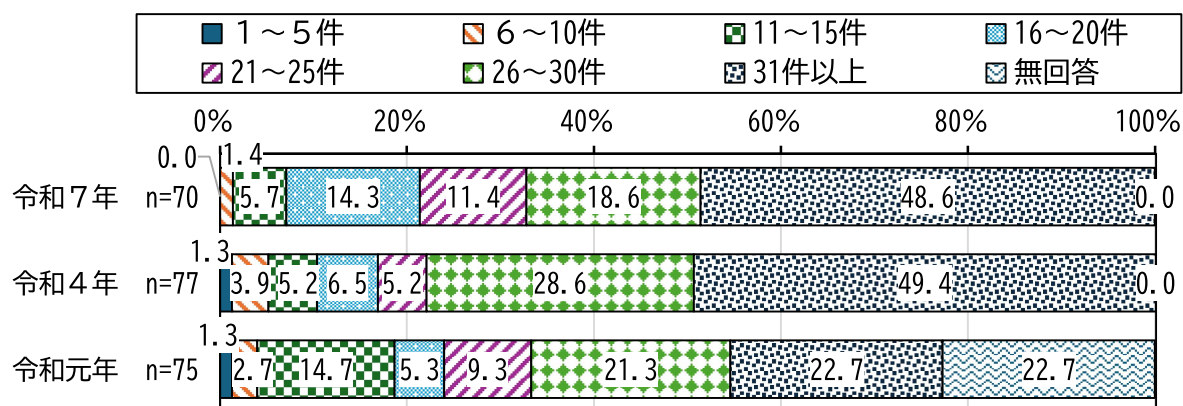
V 介護支援専門員調査の結果

1 担当しているケアプランの件数

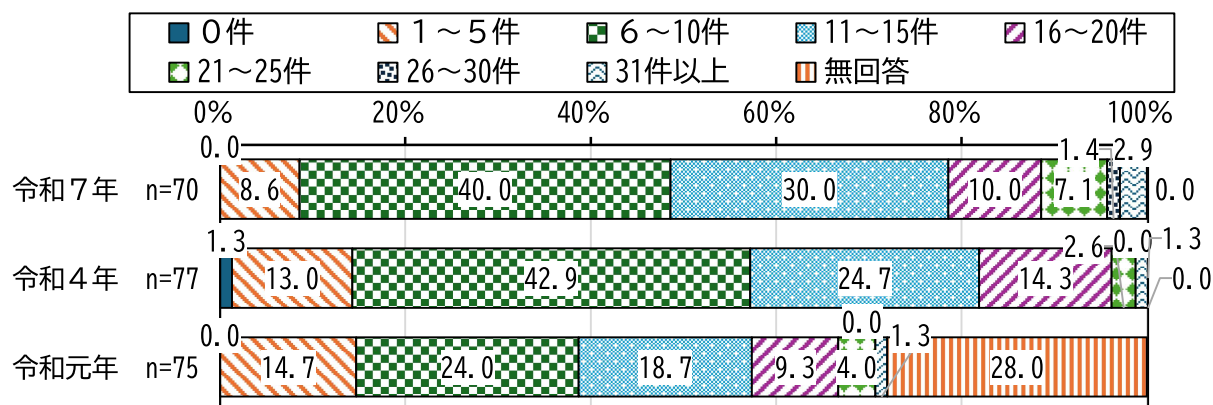
担当しているケアプランの件数をたずねたところ、介護は「31件以上」が48.6%と最も高く、次いで「26～30件」が18.6%の順となっています。

また、介護予防・ケアマネジメントは「6～10件」が40.0%と最も高く、次いで「11～15件」が30.0%の順となっています。

◇介護

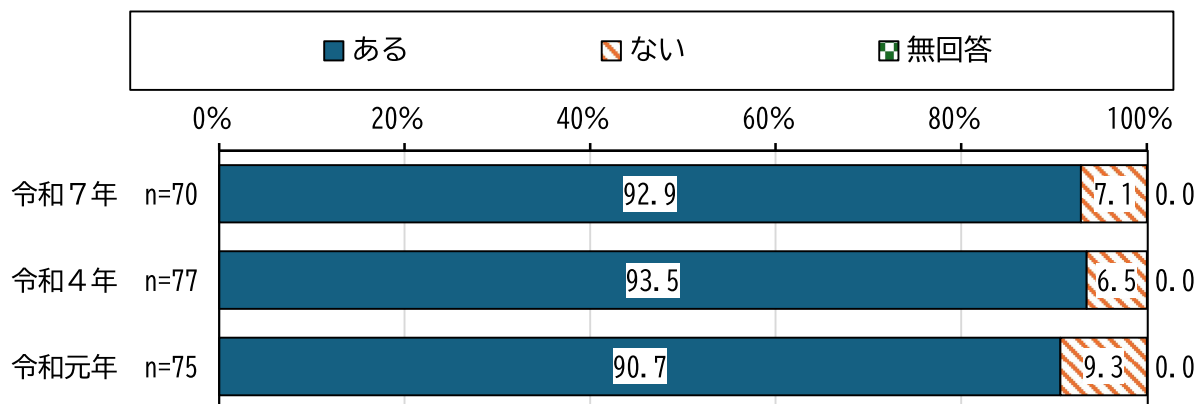


◇介護予防・ケアマネジメント



2 ケアプランで困ったことがあるか

ケアプランで困ったことがあるのは92.9%となっています。



3 ケアプランで困った内容

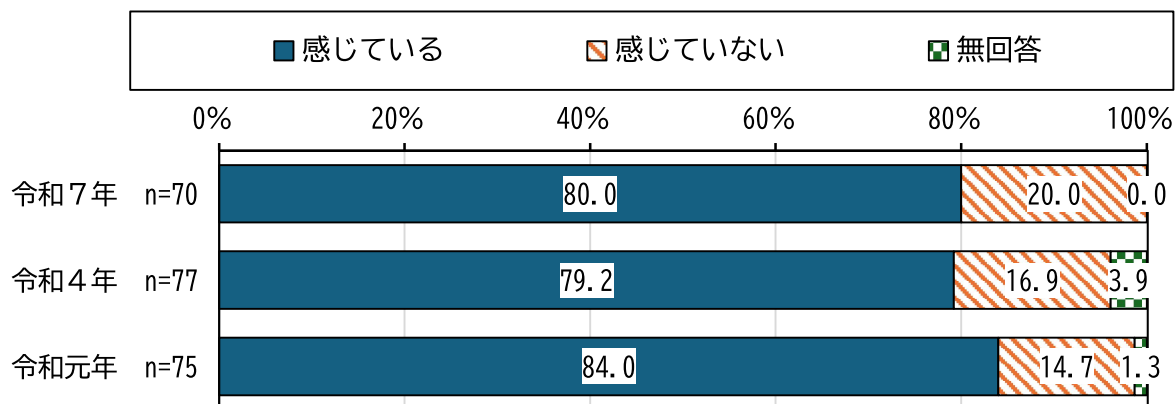
ケアプランで困ったことがある人に、その内容をたずねたところ、「利用者と家族との意見が異なるときの調整」が55.4%と最も高く、次いで「サービス管理票や請求書作成などの事務作業が多いこと」が44.6%、「利用できるサービス量が要介護度により不足してしまうこと」が43.1%の順となっています。

経年でみると、「利用できるサービス量が要介護度により不足してしまうこと」および「不必要なサービス提供が求められたこと」が上昇し、「自己研鑽や情報収集の時間がないこと」が低下しています。また、令和4年度調査と比較すると「利用者負担によりサービス利用が控えられてしまうこと」および「医療機関などとの連携ができていないこと」がそれぞれ10ポイント以上低下しています。

		回答数	サービス提供事業者との調整	利用者と家族との意見が異なるときの調整	介護支援専門員一人当たりの担当する利用者数が多いこと	サービス管理票や請求書作成などの事務作業が多いこと	制度などに関する利用者（家族・親族）の知識不足	サービス提供体制が不十分で、利用者のニーズに対応できないこと	事業所の経営を意識したケアプランになってしまうこと	利用できるサービス量が要介護度により不足してしまうこと
全体	令和7年	65	26.2	55.4	13.8	44.6	27.7	23.1	7.7	43.1
	令和4年	72	22.2	51.4	20.8	43.1	25.0	23.6	11.1	38.9
	令和元年	68	25.0	57.4	20.6	48.5	25.0	19.1	11.8	33.8
		回答数	利用者負担によりサービス利用が控えられてしまうこと	不必要なサービス提供が求められたこと	自立を支援する介護保険サービス以外のサービスの不足	ケアカンファレンスの体制が確立できていないこと	医療機関などとの連携ができていないこと	自己研鑽や情報収集の時間がないこと	その他	無回答
全体	令和7年	65	26.2	12.3	35.4	0.0	7.7	15.4	9.2	1.5
	令和4年	72	37.5	11.1	27.8	2.8	18.1	19.4	4.2	1.4
	令和元年	68	35.3	8.8	41.2	5.9	13.2	23.5	5.9	2.9

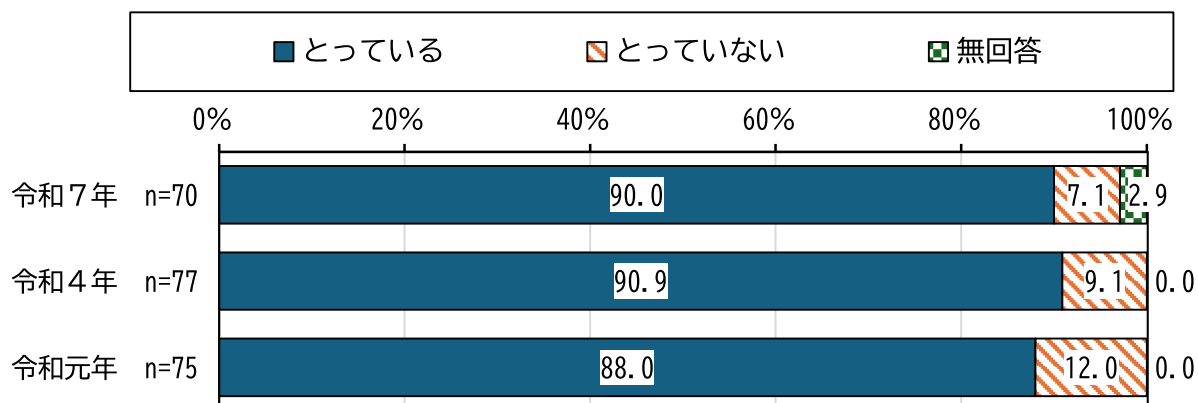
4 業務にやりがいを感じているか

業務にやりがいを感じているのは80.0%となっています。



5 介護サービスだけでは処遇が困難な場合、地域包括支援センターと連携をとっているか

介護サービスだけでは処遇が困難な場合、地域包括支援センターと連携をとっているのは90.0%となっています。



6 難しい業務

介護支援専門員として難しい業務をたずねたところ、「困難なケース（主に認知症）への対応」が64.3%と最も高く、次いで「家族間調整」が57.1%、「時間の確保」が55.7%の順となっています。

令和4年度調査と比較すると、「家族間調整」および「主治医との連携」がそれぞれ10ポイント前後低くなっています。

		回答数	サービスの調整	家族間調整	時間の確保	ケアプランの作成	ニーズのとらえ方	面接	給付管理
全体	令和7年	70	28.6	57.1	55.7	18.6	18.6	8.6	7.1
	令和4年	77	26.0	67.5	48.1	9.1	26.0	10.4	1.3
	令和元年	75	26.7	48.0	54.7	14.7	26.7	5.3	4.0
		回答数	困難なケース（主に認知症）への対応	主治医との連携	モニタリング	制度の理解	その他	無回答	
全体	令和7年	70	64.3	34.3	10.0	28.6	7.1	2.9	
	令和4年	77	59.7	44.2	2.6	29.9	5.2	1.3	
	令和元年	75	61.3	54.7	9.3	33.3	10.7	0.0	

7 業務に関する相談先

業務に関する相談先をたずねたところ、「職場の上司・同僚」が84.3%と最も高く、次いで、「地域包括支援センター」が82.9%、「愛西市役所高齢福祉課」が47.1%の順となっています。

		回答数	愛知県	愛西市役所高齢福祉課	国民健康保険団体連合会	地域包括支援センター	愛知県居宅介護支援専門員連絡協議会	地域の連絡会・勉強会	職場の上司・同僚	職場外の介護支援専門員	その他	相談できるところがない	無回答
全体	令和7年	70	0.0	47.1	5.7	82.9	2.9	10.0	84.3	30.0	0.0	0.0	1.4
	令和4年	77	0.0	53.2	5.2	87.0	0.0	5.2	83.1	29.9	5.2	1.3	0.0
	令和元年	75	1.3	45.3	5.3	82.7	1.3	20.0	82.7	30.7	2.7	1.3	0.0

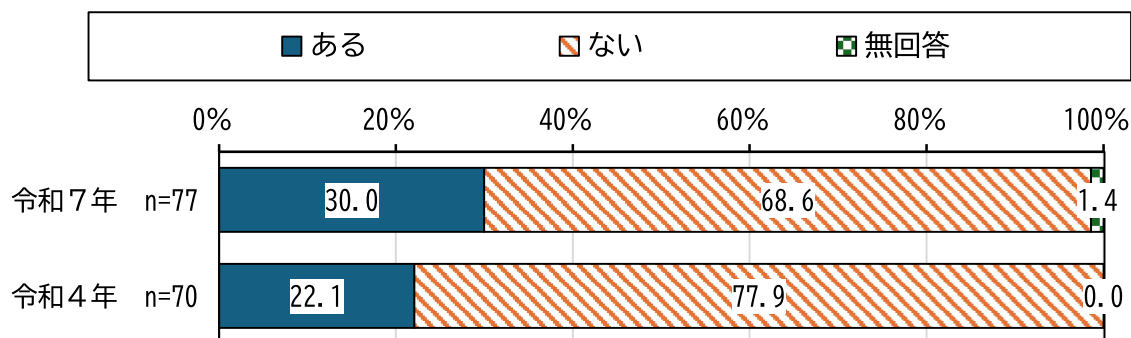
8 介護保険制度の問題

介護保険制度の問題と感ずることをたずねたところ、「介護報酬が低い」が65.7%と最も高く、次いで「急増する認知症高齢者への対応」が38.6%、「サービス事業者職員の資質」が32.9%の順となっています。令和4年度調査と比較すると「介護報酬が低い」が17.6ポイント高く、「急増する認知症高齢者への対応」が13.3ポイント低くなっています。

		回答数	サービス事業者との連絡・調整	サービス区分が複雑	利用者が少ない	利用者（家族・親族）からの苦情が多い	サービス事業者職員の資質	地域でサービスを提供できる事業所がない	介護報酬が低い	職員配置基準が厳しい	施設の設備基準が厳しい	急増する認知症高齢者への対応	その他	無回答
全体	令和7年	70	10.0	17.1	1.4	2.9	32.9	25.7	65.7	14.3	1.4	38.6	11.4	4.3
	令和4年	77	11.7	22.1	0.0	5.2	35.1	28.6	48.1	11.7	1.3	51.9	11.7	2.6
	令和元年	75	12.0	21.3	0.0	2.7	46.7	20.0	49.3	5.3	1.3	50.7	6.7	6.7

9 過去1年間に家庭内における高齢者虐待の事例を経験したか

過去1年間に家庭内における高齢者虐待の事例を経験したことがあるのは30.0%となっており、令和4年度調査と比較すると高くなっています。



10 高齢者虐待への対応に必要な制度や仕組み

高齢者虐待への対応に必要な制度や仕組みをたずねたところ、「介護者への援助の充実」が47.1%と最も高く、次いで「相談窓口の設置・明確化」が45.7%、「緊急一時保護施設の確保」が44.3%の順となっています。経年でみると、「関係機関のネットワークの強化」および「警察・司法との連携・介入」が低下しています。

		回答数	相談窓口の設置・明確化	関係機関のネットワークの強化	対応マニュアルの作成	介護者への援助の充実	住民への啓発	関係機関や職員への研修	緊急一時保護施設の確保
全体	令和7年	70	45.7	34.3	10.0	47.1	11.4	8.6	44.3
	令和4年	77	51.9	37.7	9.1	51.9	7.8	11.7	41.6
	令和元年	75	49.3	42.7	12.0	36.0	10.7	4.0	42.7
		回答数	日常生活自立支援事業の充実	成年後見制度への積極的な取り組み	警察・司法との連携・介入	家族介護者を対象とした介護相談の充実	その他	無回答	
全体	令和7年	70	1.4	4.3	7.1	35.7	5.7	1.4	
	令和4年	77	3.9	5.2	7.8	41.6	3.9	2.6	
	令和元年	75	2.7	4.0	12.0	26.7	0.0	6.7	

11 過去1年間に重層的な支援が必要なケースに関わったか

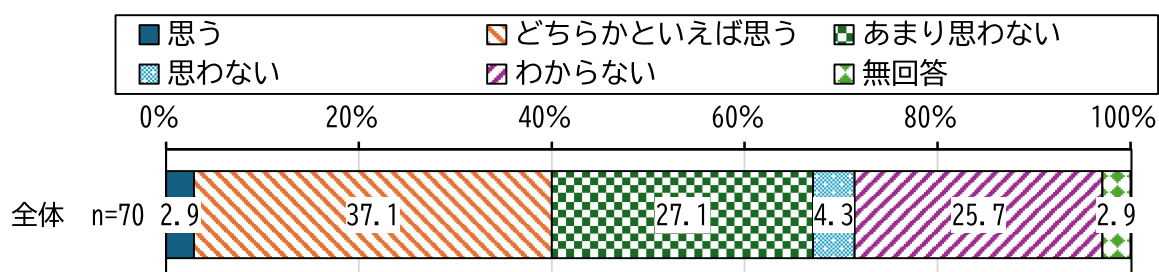
過去1年間に重層的な支援が必要なケースに関わったかたずねたところ、「関わったことはない」が47.1%と最も高くなっていますが、次いで「8050・7040 問題」が38.6%、「ダブルケア」が17.1%、「ヤングケアラー」が8.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると「ヤングケアラー」が高く、「8050・7040問題」が低くなっています。

		回答数	8050・7040問題	ヤングケアラー	ダブルケア	その他	関わったことはない	無回答
全体	令和7年	70	38.6	8.6	17.1	8.6	47.1	5.7
	令和4年	77	49.4	3.9	16.9	1.3	40.3	5.2

12 新しい認知症観

愛西市は、認知症になっても希望を持って自分らしく暮らせるまちだと思うかたずねたところ、「どちらかといえば思う」が37.1%と最も高く、次いで「あまり思わない」が27.1%、「わからない」が25.7%の順となっており、「思う」と「どちらかといえば思う」を合計した〈思う〉が40.0%、「あまり思わない」と「思わない」を合計した〈思わない〉が31.4%となっています。



愛西市 介護保険に関するアンケート調査 調査結果概要資料

発行日 令和8年3月

編 集 愛西市 保険福祉部 高齢福祉課

住 所 愛西市稲葉町米野308番地

T E L 0567-55-7116

F A X 0567-26-5515
